

被害想定の内訳

各種項目について、市町村毎に定量的な想定を行いました。但し、定量的な想定が困難な項目については、被害の様相として示しています。

建物被害	24	道路閉塞	73
全半壊棟数	24	道路上の自動車への落石・崩土 ..	74
人的被害	28	交通人的被害（道路）	75
死傷者数	28	交通人的被害（鉄道）	76
要救助者	31	災害時要援護者	77
ライフライン被害	33	震災関連死	81
上水道	33	宅地造成地	82
下水道	35	危険物施設	83
電力	37	大規模集客施設等	84
通信（固定電話・携帯電話） ..	39	宮崎駅等	86
ガス（都市ガス）	43	文化財	87
交通施設被害	45	孤立集落	89
道路	45	災害応急対策等	91
鉄道	47	堰堤、ため池等の決壊	92
港湾	49	地盤沈下による長期湛水	93
漁港	53	複合災害	94
空港	57	時間差での地震の発生	96
生活への影響	58	漁船・船舶、水産関連施設	98
避難者	58	治安	100
帰宅困難者	60	経済被害	101
物資	62	資産等の被害	101
医療機能	64	生産・サービス低下による影響 ..	102
保健衛生、防疫、遺体処理等 ..	66	交通寸断による影響	103
災害廃棄物等	68	減災効果	104
災害廃棄物等	68	全半壊棟数	104
その他の被害	70	死傷者数	106
エレベータ内閉じ込め	70	資産額等の被害	110
長周期地震動	72	生産・サービス低下による影響 ..	111
		交通寸断による影響	112

灰色：定量的な想定を実施した項目

建物被害

全半壊棟数（総括表）

シナリオ	季節・時間	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
		全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
想定 ケース	冬深夜									約1,100	約87,000	
	夏12時	約7,100	約28,000	約50,000	約76,000	約400	約900	約29,000	約20,000	約1,400	約88,000	約124,000
	冬18時									約3,100	約89,000	
想定 ケース	冬深夜									約1,200	約86,000	
	夏12時	約7,100	約28,000	約58,000	約81,000	約400	約900	約19,000	約19,000	約1,400	約86,000	約129,000
	冬18時									約3,300	約88,000	

建物被害

全半壊棟数（想定ケース 冬 18時）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊 ・焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約2,500	約10,000	約19,000	約27,000	約70	約140	約5,000	約5,900	約2,200	約29,000	約44,000
都城市	約310	約1,400	約890	約7,100	約30	約60	-	-	約40	約1,300	約8,500
延岡市	約1,700	約5,900	約6,400	約11,000	約130	約240	約9,500	約6,100	約460	約18,000	約23,000
日南市	約810	約2,800	約920	約3,700	約60	約110	約2,800	約1,800	約30	約4,600	約8,400
小林市	約130	約680	約130	約1,600	約10	約10	-	-	約10	約280	約2,300
日向市	約530	約2,200	約4,900	約5,300	約30	約60	約7,400	約3,000	約70	約13,000	約11,000
串間市	約70	約200	約50	約660	約10	約30	約140	約600	-	約270	約1,500
西都市	約250	約980	約3,500	約3,300	約10	約20	-	-	約50	約3,800	約4,300
えびの市	約170	約800	約340	約1,800	-	-	-	-	約10	約530	約2,600
三股町	約40	約240	約170	約1,100	約10	約10	-	-	約10	約220	約1,400
高原町	約10	約50	約10	約230	-	約10	-	-	-	約20	約290
国富町	約10	約50	約1,200	約2,100	約10	約20	-	-	約20	約1,200	約2,100
綾町	-	約20	約290	約680	-	約10	-	-	約10	約300	約710
高鍋町	約130	約530	約3,300	約2,000	-	約10	約420	約1,200	約80	約3,900	約3,800
新富町	約20	約140	約2,200	約1,400	約10	約20	約60	約270	約20	約2,300	約1,900
西米良村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
木城町	約30	約110	約960	約630	-	約10	-	-	約10	約1,000	約750
川南町	約10	約20	約3,200	約2,400	-	約10	約150	約70	約20	約3,400	約2,500
都農町	約10	約50	約1,300	約1,200	-	約10	約110	約70	約20	約1,400	約1,300
門川町	約430	約1,600	約1,100	約1,600	約20	約30	約3,200	約600	約20	約4,800	約3,800
諸塚村	-	-	-	約70	-	約10	-	-	-	約10	約80
椎葉村	-	-	約10	約130	-	約10	-	-	-	約10	約140
美郷町	-	約10	約90	約660	約20	約30	-	-	-	約110	約700
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約40
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約30
合計	約7,100	約28,000	約50,000	約76,000	約430	約850	約29,000	約20,000	約3,100	約89,000	約124,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

建物被害

全半壊棟数（想定ケース 冬 18 時）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約2,500	約10,000	約18,000	約27,000	約70	約140	約3,500	約6,000	約2,300	約26,000	約44,000
都城市	約310	約1,400	約940	約7,600	約30	約60	-	-	約40	約1,300	約9,000
延岡市	約1,700	約5,900	約6,000	約11,000	約130	約240	約5,800	約5,200	約520	約14,000	約22,000
日南市	約810	約2,800	約7,900	約5,800	約60	約140	約2,200	約1,600	約100	約11,000	約10,000
小林市	約130	約680	約120	約1,500	約10	約10	-	-	約10	約270	約2,200
日向市	約530	約2,200	約4,900	約5,300	約30	約60	約5,200	約3,700	約100	約11,000	約11,000
串間市	約70	約200	約2,600	約3,200	約20	約50	約370	約610	約50	約3,100	約4,100
西都市	約250	約980	約3,300	約3,300	約10	約20	-	-	約40	約3,600	約4,300
えびの市	約170	約800	約300	約1,700	-	-	-	-	約10	約490	約2,500
三股町	約40	約240	約140	約1,100	約10	約10	-	-	約10	約190	約1,300
高原町	約10	約50	約20	約310	-	約10	-	-	-	約30	約370
国富町	約10	約50	約1,100	約2,100	約10	約20	-	-	約30	約1,200	約2,100
綾町	-	約20	約280	約670	-	約10	-	-	約10	約300	約700
高鍋町	約130	約530	約3,200	約2,100	-	約10	約170	約730	約80	約3,600	約3,300
新富町	約20	約140	約2,200	約1,400	約10	約20	約30	約150	約20	約2,300	約1,800
西米良村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
木城町	約30	約110	約990	約620	-	約10	-	-	約10	約1,000	約740
川南町	約10	約20	約3,100	約2,400	-	約10	約140	約60	約10	約3,300	約2,500
都農町	約10	約50	約1,200	約1,200	-	約10	約100	約40	約20	約1,400	約1,300
門川町	約430	約1,600	約1,200	約1,600	約20	約30	約2,000	約1,000	約30	約3,600	約4,300
諸塚村	-	-	-	約70	-	約10	-	-	-	約10	約80
椎葉村	-	-	約10	約130	-	約10	-	-	-	約10	約140
美郷町	-	約10	約80	約650	約20	約30	-	-	-	約100	約680
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約40
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約30
合計	約7,100	約28,000	約58,000	約81,000	約440	約910	約19,000	約19,000	約3,300	約88,000	約129,000

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
建物被害	津波火災

被害様相

地震発生直後	
津波火災による被害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波により漂流するガスボンベ等からの出火、浸水による車両等からの出火によって火災が発生する。 ・ 津波により堆積した車の電気系統やガスボンベなどから発火して炎上する。 ・ 流出した屋外タンクからのオイル、ガスボンベやがれきなどの可燃物が燃えたまま津波に乗って漂流し、延焼が拡大する。これらの集積の密度によっては海上油面火災が形成され、燃えた船舶が延焼拡大をさらに助長する。 ・ 津波によって打ち寄せられた家屋などのがれきが高台に堆積し、火のついたがれきから周辺のがれきへ燃え広がる。 ・ 山際の避難場所まで延焼するものや山林火災に発展するものもあり、一部の避難場所では再避難が必要となる。 ・ がれきなどが障害となって消火できず、延焼が拡大する。 ・ 宮崎県においては、LP ガスが需要家の多くを占める。LP ガスについては震災後の復旧は比較的早いという実績はあるが、逆に沿岸部においては、津波によりガスボンベが流出し、津波火災につながりリスクが拡大する。 ・ 北部のリアス式の海岸地域などでは、限られた平地に多くの津波がれき押し寄せるため、一面に延焼が拡大する恐れがある。 ・ 消防などは、道路の寸断で到達できる可能性は低く、また仮に到達したとしても津波火災に関しては、なすすべがなく自然鎮火を待つことになる。

人的被害

死傷者数（総括表）

シナリオ	季節・時間	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック掘他		合計	
		死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
想定 ケース	冬深夜	約3,700	約190	約20,000	約2,600	約50	約60	約31,000	約4,500	約90	約110	約0	約0	約35,000	約24,000
	夏12時	約2,200	約90	約15,000	約1,600	約20	約20	約24,000	約3,400	約50	約120	約0	約150	約26,000	約19,000
	冬18時	約3,000	約120	約15,000	約1,800	約30	約40	約23,000	約3,100	約170	約270	約10	約310	約26,000	約19,000
想定 ケース	冬深夜	約4,200	約210	約21,000	約2,900	約50	約60	約24,000	約5,000	約110	約120	約0	約0	約28,000	約27,000
	夏12時	約2,400	約100	約17,000	約1,700	約20	約30	約18,000	約3,500	約60	約130	約0	約150	約21,000	約20,000
	冬18時	約3,400	約130	約17,000	約1,900	約40	約40	約17,000	約3,400	約200	約300	約10	約310	約21,000	約21,000

人的被害

死傷者数（想定ケース 冬深夜 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,500	約80	約7,700	約1,100	約10	約10	約1,500	約560	約60	約70	-	-	約3,100	約8,300
都城市	約60	-	約1,100	約70	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約1,100
延岡市	約490	約20	約2,800	約340	約10	約20	約7,900	約960	約10	約10	-	-	約8,400	約3,800
日南市	約70	-	約710	約40	約10	約10	約2,000	約380	-	-	-	-	約2,100	約1,100
小林市	約10	-	約240	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約240
日向市	約370	約20	約1,600	約230	-	-	約14,000	約1,700	約10	-	-	-	約15,000	約3,300
串間市	-	-	約100	-	-	-	約310	約120	-	-	-	-	約320	約220
西都市	約250	約10	約950	約160	-	-	/	/	-	-	-	-	約250	約960
えびの市	約20	-	約360	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約360
三股町	約10	-	約180	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約180
高原町	-	-	約30	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約30
国富町	約80	-	約420	約50	-	-	/	/	-	-	-	-	約80	約420
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約840	約150	-	-	約760	約230	約10	-	-	-	約1,000	約1,100
新富町	約160	約10	約520	約130	-	-	約190	約150	-	-	-	-	約350	約680
西米良村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約220	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約220
川南町	約210	約10	約860	約100	-	-	約400	約20	-	-	-	-	約620	約890
都農町	約90	-	約350	約50	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約290	約370
門川町	約80	-	約440	約50	-	-	約3,600	約330	-	-	-	-	約3,600	約780
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約3,700	約190	約20,000	約2,600	約50	約60	約31,000	約4,500	約90	約110	-	-	約35,000	約24,000

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

人的被害

死傷者数（想定ケース 冬深夜 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,400	約80	約7,500	約1,100	約10	約10	約1,500	約450	約60	約70	-	-	約2,900	約8,000
都城市	約70	-	約1,200	約70	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約1,200
延岡市	約460	約20	約2,700	約320	約10	約20	約3,900	約1,100	約10	約10	-	-	約4,400	約3,900
日南市	約560	約30	約2,100	約340	約10	約10	約4,500	約670	約20	約10	-	-	約5,100	約2,800
小林市	約10	-	約230	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約230
日向市	約370	約20	約1,600	約240	-	-	約9,600	約1,900	約10	-	-	-	約10,000	約3,500
串間市	約180	約10	約790	約70	-	-	約640	約170	-	-	-	-	約820	約970
西都市	約240	約10	約940	約160	-	-	/	/	-	-	-	-	約240	約940
えびの市	約20	-	約340	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約340
三股町	約10	-	約160	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約160
高原町	-	-	約50	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約50
国富町	約80	-	約410	約50	-	-	/	/	-	-	-	-	約80	約410
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約830	約150	-	-	約370	約170	約10	-	-	-	約610	約1,000
新富町	約160	約10	約530	約130	-	-	約60	約20	-	-	-	-	約230	約550
西米良村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約230	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約230
川南町	約210	約10	約850	約100	-	-	約390	約10	-	-	-	-	約600	約860
都農町	約80	-	約340	約50	-	-	約200	約10	-	-	-	-	約290	約360
門川町	約90	-	約460	約60	-	-	約2,800	約450	-	-	-	-	約2,900	約910
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約4,200	約210	約21,000	約2,900	約50	約60	約24,000	約5,000	約110	約120	-	-	約28,000	約27,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

人的被害

要救助者数（自力脱出困難者数）（想定ケース）

市町村	揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数(人)			津波による要救助者数(人)			合計(人)		
	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時
宮崎市	約5,400	約3,500	約4,200	約6,400	約4,800	約5,200	約12,000	約8,300	約9,400
都城市	約180	約110	約130				約180	約110	約130
延岡市	約1,700	約980	約1,300	約3,700	約3,400	約3,400	約5,400	約4,400	約4,700
日南市	約190	約110	約150	約440	約380	約390	約630	約490	約530
小林市	約20	約10	約10				約20	約10	約10
日向市	約1,200	約660	約890	約2,100	約1,800	約1,900	約3,300	約2,500	約2,700
串間市	約10	-	約10	-	-	-	約10	-	約10
西都市	約780	約360	約530				約780	約360	約530
えびの市	約50	約30	約40				約50	約30	約40
三股町	約40	約20	約30				約40	約20	約30
高原町	-	-	-				-	-	-
国富町	約240	約130	約180				約240	約130	約180
綾町	約60	約20	約40				約60	約20	約40
高鍋町	約700	約480	約570	約330	約330	約320	約1,000	約820	約880
新富町	約590	約260	約390	-	-	-	約590	約260	約390
西米良村	-	-	-				-	-	-
木城町	約180	約90	約130				約180	約90	約130
川南町	約520	約280	約370	-	-	-	約520	約280	約370
都農町	約240	約90	約150	-	-	-	約240	約90	約150
門川町	約260	約120	約180	約340	約260	約280	約600	約380	約460
諸塚村	-	-	-				-	-	-
椎葉村	-	-	-				-	-	-
美郷町	約10	約10	約10				約10	約10	約10
高千穂町	-	-	-				-	-	-
日之影町	-	-	-				-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-				-	-	-
合計	約12,000	約7,300	約9,300	約13,000	約11,000	約11,000	約26,000	約18,000	約21,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

人的被害

要救助者数（自力脱出困難者数）（想定ケース）

市町村	揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数(人)			津波による要救助者数(人)			合計(人)		
	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時
宮崎市	約5,100	約3,400	約4,000	約5,600	約4,100	約4,500	約11,000	約7,500	約8,500
都城市	約180	約110	約140				約180	約110	約140
延岡市	約1,600	約860	約1,200	約2,500	約2,100	約2,100	約4,100	約3,000	約3,300
日南市	約1,700	約960	約1,300	約550	約630	約570	約2,200	約1,600	約1,800
小林市	約20	約10	約20				約20	約10	約20
日向市	約1,200	約670	約890	約1,600	約1,400	約1,400	約2,800	約2,100	約2,300
串間市	約350	約180	約260	約40	約30	約30	約390	約220	約290
西都市	約760	約350	約520				約760	約350	約520
えびの市	約50	約30	約40				約50	約30	約40
三股町	約30	約20	約20				約30	約20	約20
高原町	-	-	-				-	-	-
国富町	約230	約120	約170				約230	約120	約170
綾町	約60	約20	約40				約60	約20	約40
高鍋町	約700	約480	約560	約170	約170	約160	約870	約650	約720
新富町	約610	約270	約400	-	-	-	約610	約270	約400
西米良村	-	-	-				-	-	-
木城町	約200	約100	約140				約200	約100	約140
川南町	約510	約260	約360	-	-	-	約510	約260	約360
都農町	約230	約90	約150	-	-	-	約230	約90	約150
門川町	約280	約130	約190	約250	約210	約220	約530	約340	約410
諸塚村	-	-	-				-	-	-
椎葉村	-	-	-				-	-	-
美郷町	約10	約10	約10				約10	約10	約10
高千穂町	-	-	-				-	-	-
日之影町	-	-	-				-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-				-	-	-
合計	約14,000	約8,000	約10,000	約11,000	約8,700	約9,000	約24,000	約17,000	約19,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

上水道（想定ケース）

市町村	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
宮崎市	約398,000	約396,000	100%	約381,000	96%	約296,000	74%	約97,000	24%
都城市	約164,000	約152,000	93%	約110,000	67%	約58,000	35%	約8,300	5%
延岡市	約126,000	約125,000	99%	約120,000	95%	約99,000	78%	約46,000	36%
日南市	約55,000	約52,000	95%	約42,000	76%	約28,000	51%	約9,200	17%
小林市	約46,000	約40,000	87%	約24,000	52%	約11,000	25%	約1,400	3%
日向市	約62,000	約62,000	100%	約61,000	99%	約56,000	92%	約34,000	55%
串間市	約19,000	約15,000	80%	約7,800	40%	約3,300	17%	約520	3%
西都市	約28,000	約28,000	100%	約27,000	98%	約22,000	80%	約7,400	27%
えびの市	約20,000	約19,000	93%	約14,000	69%	約7,600	38%	約1,200	6%
三股町	約25,000	約24,000	96%	約19,000	77%	約11,000	44%	約1,700	7%
高原町	約9,700	約7,600	78%	約3,400	35%	約1,300	14%	約100	1%
国富町	約20,000	約20,000	99%	約19,000	94%	約14,000	66%	約3,600	17%
綾町	約7,100	約7,000	99%	約6,300	89%	約4,300	61%	約1,000	15%
高鍋町	約21,000	約21,000	100%	約20,000	100%	約19,000	92%	約8,500	41%
新富町	約18,000	約18,000	100%	約18,000	100%	約16,000	90%	約7,600	42%
西米良村	約640	約540	85%	約300	47%	約140	21%	約20	2%
木城町	約4,900	約4,900	100%	約4,900	99%	約4,400	90%	約2,200	45%
川南町	約16,000	約16,000	100%	約16,000	99%	約14,000	87%	約5,900	37%
都農町	約11,000	約11,000	100%	約10,000	98%	約8,400	79%	約3,000	28%
門川町	約18,000	約18,000	100%	約18,000	98%	約17,000	92%	約11,000	61%
諸塚村	約780	約650	84%	約390	50%	約190	24%	約20	3%
椎葉村	約690	約580	85%	約360	52%	約180	27%	約20	3%
美郷町	約5,400	約5,100	95%	約3,900	72%	約2,100	39%	約320	6%
高千穂町	約12,000	約4,300	36%	約880	7%	約270	2%	-	0%
日之影町	約2,900	約1,400	49%	約410	14%	約130	4%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,700	約1,700	60%	約540	20%	約180	7%	-	0%
合計	約1,094,000	約1,051,000	96%	約928,000	85%	約693,000	63%	約249,000	23%

- : わずか

(注1) 断水率は各市町村の給水人口に占める断水人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

上水道（想定ケース）

市町村	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
宮崎市	約398,000	約396,000	99%	約379,000	95%	約289,000	73%	約90,000	23%
都城市	約164,000	約153,000	93%	約111,000	68%	約59,000	36%	約8,600	5%
延岡市	約126,000	約125,000	99%	約118,000	94%	約92,000	73%	約35,000	28%
日南市	約55,000	約55,000	100%	約54,000	98%	約47,000	86%	約22,000	41%
小林市	約46,000	約40,000	88%	約24,000	53%	約11,000	25%	約1,400	3%
日向市	約62,000	約62,000	100%	約61,000	98%	約54,000	88%	約28,000	45%
串間市	約19,000	約19,000	100%	約18,000	95%	約14,000	71%	約4,400	23%
西都市	約28,000	約28,000	100%	約27,000	98%	約22,000	79%	約7,300	27%
えびの市	約20,000	約19,000	93%	約14,000	68%	約7,500	37%	約1,200	6%
三股町	約25,000	約24,000	95%	約18,000	73%	約10,000	40%	約1,500	6%
高原町	約9,700	約8,100	83%	約4,100	43%	約1,800	18%	約180	2%
国富町	約20,000	約20,000	99%	約19,000	93%	約13,000	66%	約3,500	17%
綾町	約7,100	約7,000	98%	約6,300	89%	約4,200	60%	約990	14%
高鍋町	約21,000	約21,000	100%	約20,000	100%	約19,000	91%	約8,200	40%
新富町	約18,000	約18,000	100%	約18,000	100%	約16,000	90%	約7,900	44%
西米良村	約640	約540	84%	約280	44%	約120	18%	約10	2%
木城町	約4,900	約4,900	100%	約4,900	99%	約4,400	91%	約2,300	46%
川南町	約16,000	約16,000	100%	約16,000	99%	約14,000	86%	約5,800	36%
都農町	約11,000	約11,000	100%	約10,000	97%	約8,300	78%	約2,900	27%
門川町	約18,000	約18,000	100%	約18,000	97%	約16,000	86%	約8,100	44%
諸塚村	約780	約650	83%	約370	48%	約180	23%	約20	3%
椎葉村	約690	約580	83%	約330	48%	約160	24%	約20	3%
美郷町	約5,400	約5,100	94%	約3,800	71%	約2,100	39%	約310	6%
高千穂町	約12,000	約4,600	38%	約1,000	9%	約320	3%	-	0%
日之影町	約2,900	約1,400	50%	約410	14%	約130	4%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,700	約1,600	60%	約520	19%	約170	6%	-	0%
合計	約1,094,000	約1,058,000	97%	約948,000	87%	約706,000	65%	約240,000	22%

- : わずか

(注1) 断水率は各市町村の給水人口に占める断水人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

下水道（想定ケース）

市町村	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)
宮崎市	約351,000	約345,000	98%	約300,000	85%	約199,000	57%	約180,000	51%
都城市	約82,000	約69,000	84%	約26,000	32%	約500	1%	約40	0%
延岡市	約104,000	約103,000	99%	約97,000	93%	約88,000	85%	約83,000	80%
日南市	約22,000	約19,000	86%	約8,900	41%	約2,900	14%	約1,400	7%
小林市	約15,000	約11,000	78%	約3,300	22%	約60	0%	-	0%
日向市	約37,000	約37,000	100%	約36,000	97%	約34,000	91%	約31,000	85%
串間市	約4,400	約3,100	72%	約740	17%	約20	1%	約10	0%
西都市	約17,000	約17,000	98%	約14,000	79%	約2,100	12%	約240	1%
えびの市									
三股町	約8,300	約7,400	89%	約3,200	38%	約60	1%	-	0%
高原町	約640	約450	70%	約90	13%	-	0%	-	0%
国富町	約8,000	約7,700	96%	約5,400	67%	約540	7%	約40	1%
綾町	約3,300	約3,100	94%	約1,800	56%	約160	5%	約10	0%
高鍋町	約7,100	約7,000	99%	約6,400	91%	約2,000	29%	約490	7%
新富町									
西米良村	約520	約400	76%	約100	19%	-	0%	-	0%
木城町	約3,600	約3,500	99%	約3,100	88%	約740	21%	約120	3%
川南町	約4,700	約4,600	99%	約4,100	87%	約1,400	30%	約850	18%
都農町									
門川町	約1,500	約1,500	99%	約1,400	95%	約1,300	88%	約1,100	76%
諸塚村	約210	約160	73%	約40	20%	-	0%	-	0%
椎葉村	約40	約30	73%	約10	18%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,400	約2,100	87%	約850	35%	約20	1%	-	0%
高千穂町	約4,200	約1,300	32%	約110	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約270	約120	44%	約10	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町									
合計	約677,000	約644,000	95%	約512,000	76%	約332,000	49%	約299,000	44%

- : わずか

(注1) 機能支障率は各市町村の処理人口に占める支障人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

下水道（想定ケース）

市町村	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)
宮崎市	約351,000	約341,000	97%	約268,000	76%	約110,000	31%	約86,000	25%
都城市	約82,000	約70,000	85%	約27,000	32%	約510	1%	約40	0%
延岡市	約104,000	約103,000	99%	約96,000	92%	約84,000	81%	約81,000	77%
日南市	約22,000	約21,000	98%	約17,000	81%	約6,300	29%	約2,500	12%
小林市	約15,000	約11,000	79%	約3,300	23%	約60	0%	-	0%
日向市	約37,000	約37,000	100%	約35,000	96%	約32,000	87%	約30,000	81%
串間市	約4,400	約4,200	97%	約3,000	70%	約340	8%	約50	1%
西都市	約17,000	約17,000	98%	約13,000	79%	約2,100	13%	約250	1%
えびの市									
三股町	約8,300	約7,300	88%	約3,100	37%	約60	1%	-	0%
高原町	約640	約480	75%	約110	17%	-	0%	-	0%
国富町	約8,000	約7,700	96%	約5,300	66%	約520	6%	約40	0%
綾町	約3,300	約3,100	93%	約1,800	55%	約150	5%	約10	0%
高鍋町	約7,100	約7,000	99%	約6,400	91%	約1,500	22%	約270	4%
新富町									
西米良村	約520	約390	75%	約100	19%	-	0%	-	0%
木城町	約3,600	約3,500	99%	約3,100	88%	約760	21%	約130	4%
川南町	約4,700	約4,600	99%	約4,100	88%	約1,400	30%	約840	18%
都農町									
門川町	約1,500	約1,500	99%	約1,300	88%	約1,000	69%	約750	51%
諸塚村	約210	約150	73%	約40	18%	-	0%	-	0%
椎葉村	約40	約30	72%	約10	17%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,400	約2,100	86%	約830	35%	約20	1%	-	0%
高千穂町	約4,200	約1,400	34%	約120	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約270	約120	44%	約10	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町									
合計	約677,000	約644,000	95%	約489,000	72%	約241,000	36%	約201,000	30%

- : わずか

(注1) 機能支障率は各市町村の処理人口に占める支障人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

電力（想定ケース）

市町村	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
宮崎市	約209,000	約201,000	96%	約143,000	68%	約44,000	21%	約16,000	8%
都城市	約89,000	約75,000	84%	約28,000	31%	約3,000	3%	約240	0%
延岡市	約67,000	約64,000	95%	約44,000	65%	約20,000	30%	約14,000	21%
日南市	約30,000	約26,000	85%	約11,000	36%	約3,100	10%	約2,200	7%
小林市	約26,000	約20,000	78%	約5,700	22%	約490	2%	約50	0%
日向市	約32,000	約31,000	98%	約26,000	81%	約16,000	49%	約13,000	40%
串間市	約12,000	約8,500	71%	約2,000	17%	約150	1%	約30	0%
西都市	約17,000	約16,000	98%	約13,000	77%	約3,800	23%	約730	4%
えびの市	約13,000	約11,000	84%	約3,900	31%	約450	4%	約40	0%
三股町	約12,000	約10,000	89%	約4,400	38%	約510	4%	約30	0%
高原町	約5,400	約3,800	70%	約690	13%	約30	1%	約10	0%
国富町	約10,000	約9,700	96%	約6,500	65%	約1,700	16%	約290	3%
綾町	約3,900	約3,700	93%	約2,100	53%	約430	11%	約70	2%
高鍋町	約11,000	約11,000	99%	約10,000	89%	約4,200	37%	約1,600	14%
新富町	約7,900	約7,800	99%	約7,000	88%	約2,800	36%	約700	9%
西米良村	約1,000	約770	75%	約190	19%	約10	1%	-	0%
木城町	約2,500	約2,500	99%	約2,100	86%	約870	35%	約190	7%
川南町	約8,000	約7,900	98%	約6,600	83%	約2,300	29%	約610	8%
都農町	約5,400	約5,200	98%	約4,100	76%	約1,300	24%	約310	6%
門川町	約8,700	約8,500	98%	約6,900	79%	約4,700	54%	約4,100	47%
諸塚村	約1,400	約1,100	73%	約270	19%	約20	2%	-	0%
椎葉村	約2,200	約1,600	72%	約390	18%	約30	1%	-	0%
美郷町	約4,100	約3,600	86%	約1,400	34%	約160	4%	約10	0%
高千穂町	約7,000	約2,300	32%	約180	3%	-	0%	約10	0%
日之影町	約2,600	約1,100	44%	約140	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,300	約1,200	53%	約160	7%	-	0%	-	0%
合計	約590,000	約534,000	91%	約328,000	56%	約109,000	18%	約54,000	9%

- : わずか

（注1）停電率は各市町村の電灯軒数に占める停電軒数の割合としました。

（注2）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

電力（想定ケース）

市町村	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
宮崎市	約209,000	約201,000	96%	約140,000	67%	約40,000	19%	約12,000	6%
都城市	約89,000	約76,000	85%	約28,000	32%	約3,100	3%	約240	0%
延岡市	約67,000	約63,000	95%	約41,000	62%	約15,000	23%	約9,400	14%
日南市	約30,000	約30,000	97%	約23,000	76%	約9,100	30%	約4,400	15%
小林市	約26,000	約20,000	79%	約5,800	22%	約500	2%	約50	0%
日向市	約32,000	約31,000	98%	約25,000	79%	約13,000	40%	約8,900	28%
串間市	約12,000	約11,000	96%	約8,100	68%	約2,300	19%	約600	5%
西都市	約17,000	約16,000	97%	約13,000	76%	約3,800	23%	約730	4%
えびの市	約13,000	約11,000	84%	約3,900	31%	約430	3%	約40	0%
三股町	約12,000	約10,000	88%	約4,200	36%	約490	4%	約30	0%
高原町	約5,400	約4,100	75%	約910	17%	約60	1%	約10	0%
国富町	約10,000	約9,700	96%	約6,500	64%	約1,600	16%	約280	3%
綾町	約3,900	約3,700	93%	約2,100	53%	約420	11%	約60	2%
高鍋町	約11,000	約11,000	99%	約10,000	89%	約3,800	34%	約990	9%
新富町	約7,900	約7,800	99%	約7,000	89%	約2,900	36%	約650	8%
西米良村	約1,000	約770	75%	約190	19%	約10	1%	-	0%
木城町	約2,500	約2,500	99%	約2,100	86%	約890	35%	約190	8%
川南町	約8,000	約7,900	98%	約6,600	83%	約2,300	29%	約610	8%
都農町	約5,400	約5,200	98%	約4,000	75%	約1,200	23%	約300	6%
門川町	約8,700	約8,400	97%	約6,400	74%	約3,700	43%	約3,000	35%
諸塚村	約1,400	約1,000	72%	約250	17%	約20	1%	-	0%
椎葉村	約2,200	約1,600	72%	約370	17%	約30	1%	-	0%
美郷町	約4,100	約3,500	86%	約1,400	34%	約160	4%	約10	0%
高千穂町	約7,000	約2,400	34%	約200	3%	-	0%	約10	0%
日之影町	約2,600	約1,200	44%	約140	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,300	約1,200	52%	約150	7%	-	0%	-	0%
合計	約590,000	約541,000	92%	約341,000	58%	約105,000	18%	約43,000	7%

- : わずか

(注1) 停電率は各市町村の電灯軒数に占める停電軒数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

通信 固定電話（想定ケース）

市町村	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
宮崎市	約127,000	約122,000	97%	約88,000	70%	約15,000	12%	約5,900	5%
都城市	約55,000	約46,000	84%	約17,000	31%	約150	0%	-	0%
延岡市	約39,000	約37,000	96%	約28,000	72%	約14,000	36%	約7,500	19%
日南市	約22,000	約19,000	86%	約9,200	41%	約3,000	14%	約1,500	7%
小林市	約20,000	約15,000	78%	約4,300	22%	約40	0%	-	0%
日向市	約19,000	約19,000	99%	約17,000	88%	約12,000	62%	約7,300	38%
串間市	約8,300	約5,900	71%	約1,400	17%	約30	0%	約10	0%
西都市	約11,000	約11,000	97%	約8,700	77%	約500	4%	-	0%
えびの市	約9,100	約7,600	84%	約2,800	31%	約30	0%	-	0%
三股町	約7,100	約6,300	89%	約2,700	38%	約20	0%	-	0%
高原町	約4,100	約2,900	70%	約520	13%	約10	0%	-	0%
国富町	約7,100	約6,800	96%	約4,600	65%	約210	3%	-	0%
綾町	約2,500	約2,300	93%	約1,300	53%	約40	2%	-	0%
高鍋町	約7,400	約7,300	99%	約6,700	90%	約1,500	21%	約540	7%
新富町	約6,000	約5,900	99%	約5,300	89%	約620	10%	約100	2%
西米良村	約700	約530	75%	約130	19%	-	0%	-	0%
木城町	約1,800	約1,800	99%	約1,500	86%	約130	7%	-	0%
川南町	約5,800	約5,700	98%	約4,800	83%	約570	10%	約140	2%
都農町	約3,900	約3,800	98%	約3,000	77%	約290	7%	約60	2%
門川町	約5,100	約5,000	99%	約4,500	89%	約3,700	72%	約2,400	46%
諸塚村	約900	約660	73%	約170	19%	-	0%	-	0%
椎葉村	約1,300	約940	72%	約230	18%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,400	約2,100	87%	約830	34%	約10	0%	-	0%
高千穂町	約2,700	約870	32%	約70	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約1,300	約570	44%	約70	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約1,500	約800	53%	約100	7%	-	0%	-	0%
合計	約372,000	約338,000	91%	約213,000	57%	約52,000	14%	約25,000	7%

- : わずか

(注1) 不通回線率は各市町村の回線数に占める不通回線数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

通信 携帯電話（想定ケース）

市町村	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク
宮崎市	14%	A	82%	A	35%	-	22%	-
都城市	12%	A	43%	C	16%	-	13%	-
延岡市	14%	A	79%	A	44%	B	35%	C
日南市	13%	A	49%	B	23%	-	20%	-
小林市	11%	A	33%	-	13%	-	12%	-
日向市	14%	A	95%	A	63%	A	54%	A
串間市	10%	A	27%	-	12%	-	11%	-
西都市	14%	A	91%	A	37%	-	19%	-
えびの市	12%	A	43%	C	16%	-	13%	-
三股町	13%	A	51%	C	17%	-	13%	-
高原町	10%	A	23%	-	11%	-	10%	-
国富町	14%	A	79%	A	30%	-	17%	-
綾町	14%	A	67%	A	25%	-	15%	-
高鍋町	15%	A	100%	A	52%	B	29%	-
新富町	15%	A	100%	A	50%	C	23%	-
西米良村	11%	A	30%	-	12%	-	11%	-
木城町	14%	A	100%	A	49%	C	22%	-
川南町	14%	A	97%	A	43%	C	22%	-
都農町	14%	A	91%	A	38%	-	20%	-
門川町	14%	A	94%	A	68%	A	62%	A
諸塚村	11%	A	30%	-	12%	-	11%	-
椎葉村	11%	A	28%	-	12%	-	11%	-
美郷町	13%	A	47%	C	17%	-	13%	-
高千穂町	5%	C	7%	-	5%	-	5%	-
日之影町	6%	B	12%	-	7%	-	7%	-
五ヶ瀬町	8%	A	15%	-	8%	-	8%	-
合計	13%	A	69%	A	32%	-	22%	-

- : わずか

(注1) 停波基地局率は、基地局全体に占める停波した基地局の割合としました。

(注2) 携帯電話不通ランク A: 非常につながりにくい、B: つながりにくい。C: ややつながりにくい

(注3) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

通信 固定電話（想定ケース）

市町村	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
宮崎市	約127,000	約122,000	96%	約86,000	68%	約11,000	9%	約3,900	3%
都城市	約55,000	約47,000	85%	約17,000	32%	約150	0%	-	0%
延岡市	約39,000	約37,000	95%	約26,000	67%	約9,600	25%	約4,800	12%
日南市	約22,000	約22,000	98%	約18,000	79%	約5,400	24%	約2,500	11%
小林市	約20,000	約16,000	79%	約4,400	22%	約40	0%	-	0%
日向市	約19,000	約19,000	98%	約16,000	84%	約8,900	46%	約4,900	25%
串間市	約8,300	約8,000	97%	約5,700	69%	約560	7%	約160	2%
西都市	約11,000	約11,000	97%	約8,600	76%	約500	4%	-	0%
えびの市	約9,100	約7,600	84%	約2,800	31%	約30	0%	-	0%
三股町	約7,100	約6,200	88%	約2,600	36%	約20	0%	-	0%
高原町	約4,100	約3,100	75%	約680	17%	約10	0%	-	0%
国富町	約7,100	約6,800	96%	約4,600	64%	約200	3%	-	0%
綾町	約2,500	約2,300	93%	約1,300	53%	約40	2%	-	0%
高鍋町	約7,400	約7,300	99%	約6,600	89%	約790	11%	約160	2%
新富町	約6,000	約5,900	99%	約5,300	89%	約520	9%	約30	0%
西米良村	約700	約530	75%	約130	19%	-	0%	-	0%
木城町	約1,800	約1,800	98%	約1,500	86%	約140	8%	-	0%
川南町	約5,800	約5,700	98%	約4,800	84%	約570	10%	約140	2%
都農町	約3,900	約3,800	98%	約3,000	76%	約270	7%	約50	1%
門川町	約5,100	約5,000	98%	約4,200	83%	約2,900	56%	約1,700	33%
諸塚村	約900	約650	72%	約160	17%	-	0%	-	0%
椎葉村	約1,300	約940	72%	約220	17%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,400	約2,100	86%	約810	34%	約10	0%	-	0%
高千穂町	約2,700	約910	34%	約80	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約1,300	約570	44%	約70	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約1,500	約790	52%	約100	7%	-	0%	-	0%
合計	約372,000	約343,000	92%	約221,000	59%	約42,000	11%	約18,000	5%

- : わずか

(注1) 不通回線率は各市町村の回線数に占める不通回線数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

通信 携帯電話（想定ケース）

市町村	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク
宮崎市	14%	A	81%	A	33%	-	20%	-
都城市	12%	A	44%	C	16%	-	13%	-
延岡市	14%	A	76%	A	37%	C	28%	-
日南市	14%	A	91%	A	44%	C	29%	-
小林市	12%	A	34%	-	13%	-	12%	-
日向市	14%	A	93%	A	54%	A	42%	B
串間市	14%	A	83%	A	33%	-	19%	-
西都市	14%	A	90%	A	37%	-	19%	-
えびの市	12%	A	43%	C	16%	-	13%	-
三股町	13%	A	49%	C	17%	-	13%	-
高原町	11%	A	28%	-	12%	-	11%	-
国富町	14%	A	78%	A	30%	-	17%	-
綾町	14%	A	66%	A	24%	-	15%	-
高鍋町	15%	A	100%	A	48%	C	23%	-
新富町	15%	A	100%	A	51%	C	23%	-
西米良村	11%	A	30%	-	12%	-	11%	-
木城町	14%	A	100%	A	50%	C	22%	-
川南町	14%	A	98%	A	43%	C	22%	-
都農町	14%	A	90%	A	38%	-	20%	-
門川町	14%	A	89%	A	57%	A	49%	A
諸塚村	11%	A	28%	-	12%	-	11%	-
椎葉村	11%	A	27%	-	12%	-	11%	-
美郷町	13%	A	47%	C	16%	-	13%	-
高千穂町	5%	C	8%	-	5%	-	5%	-
日之影町	6%	B	12%	-	7%	-	7%	-
五ヶ瀬町	8%	A	14%	-	8%	-	8%	-
合計	13%	A	71%	A	31%	-	21%	-

- : わずか

(注1) 停波基地局率は、基地局全体に占める停波した基地局の割合としました。

(注2) 携帯電話不通ランク A: 非常につながりにくい、B: つながりにくい。C: ややつながりにくい

(注3) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

ガス 都市ガス（想定ケース）

供給 エリア	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
			供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)
宮崎	約50,000	約24,000	約19,000	79%	約18,000	75%	約13,000	52%	-	0%
都城	約12,000	約11,000	約8,400	79%	約7,900	75%	約5,500	52%	-	0%
延岡	約20,000	約4,500	約3,600	79%	約3,400	75%	約2,300	52%	-	0%
合計	約82,000	約39,000	約31,000	79%	約29,000	75%	約20,000	52%	-	0%

- : わずか

(注 1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた供給エリアの需要家数に占める供給停止戸数の割合としました。

(注 2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

ライフライン被害

ガス 都市ガス（想定ケース）

供給 エリア	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
			供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)
宮崎	約50,000	約25,000	約20,000	79%	約19,000	75%	約13,000	52%	-	0%
都城	約12,000	約11,000	約8,300	79%	約7,900	75%	約5,500	52%	-	0%
延岡	約20,000	約6,300	約5,000	79%	約4,800	75%	約3,300	52%	-	0%
合計	約82,000	約42,000	約33,000	79%	約31,000	75%	約22,000	52%	-	0%

- : わずか

(注 1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた供給エリアの需要家数に占める供給停止戸数の割合としました。

(注 2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

道路（想定ケース）

市町村	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
宮崎市	約80	約220	約300
都城市		約160	約160
延岡市	約90	約80	約170
日南市	約20	約50	約70
小林市		約70	約70
日向市	約70	約40	約110
串間市	約10	約20	約30
西都市		約60	約60
えびの市		約40	約40
三股町		約20	約20
高原町		約10	約10
国富町		約30	約30
綾町		約10	約10
高鍋町	-	約30	約30
新富町	-	約30	約40
西米良村		約20	約20
木城町		約10	約10
川南町	-	約30	約40
都農町	-	約20	約20
門川町	約40	約10	約50
諸塚村		約20	約20
椎葉村		約40	約40
美郷町		約40	約40
高千穂町		約10	約10
日之影町		約20	約20
五ヶ瀬町		約10	約10
合計	約320	約1,100	約1,400

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

道路（想定ケース）

市町村	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
宮崎市	約70	約220	約280
都城市		約160	約160
延岡市	約60	約90	約150
日南市	約40	約60	約100
小林市		約70	約70
日向市	約50	約40	約80
串間市	約20	約30	約50
西都市		約60	約60
えびの市		約40	約40
三股町		約20	約20
高原町		約20	約20
国富町		約30	約30
綾町		約10	約10
高鍋町	-	約30	約30
新富町	-	約30	約40
西米良村		約20	約20
木城町		約20	約20
川南町	-	約30	約40
都農町	-	約20	約20
門川町	約20	約10	約30
諸塚村		約20	約20
椎葉村		約40	約40
美郷町		約40	約40
高千穂町		約10	約10
日之影町		約20	約20
五ヶ瀬町		約10	約10
合計	約260	約1,100	約1,400

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

鉄道（想定ケース）

路線	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
日豊本線	約100	約260	約370
日南線	約30	約140	約160
吉都線		約110	約110
肥薩線		約20	約20
宮崎空港線	-	-	-
合計	約130	約530	約660

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、路線別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

鉄道（想定ケース）

路線	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
日豊本線	約90	約280	約370
日南線	約30	約180	約210
吉都線		約120	約120
肥薩線		約20	約20
宮崎空港線	-	-	-
合計	約120	約600	約720

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、路線別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

港湾（想定ケース）

区分	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
重要	細島港	22	16	25	19
	宮崎港	12	7	21	16
	油津港	10	3	16	4
	小計	44	25	62	39
地方	古江港			31	19
	熊野江港			7	4
	延岡港	1	1	14	8
	延岡新港	7	4	2	1
	美々津港			15	14
	内海港	2	1	16	9
	外浦港	5	1	24	4
	福島港	2	-	32	4
	黒井港			2	-
	大島港			8	2
	大納港			2	-
	平岩港			4	4
	小計	17	7	157	69
合計		61	32	219	108

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

港湾（想定ケース）

区分	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
重要	細島港	22	16	25	19
	宮崎港	12	7	21	15
	油津港	10	9	16	14
	小計	44	31	62	49
地方	古江港			31	20
	熊野江港			7	5
	延岡港	1	1	14	8
	延岡新港	7	4	2	1
	美々津港			15	14
	内海港	2	1	16	10
	外浦港	5	4	24	21
	福島港	2	2	32	26
	黒井港			2	2
	大島港			8	7
	大納港			2	2
	平岩港			4	4
	小計	17	12	157	119
合計		61	43	219	167

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

港湾 防波堤（想定ケース）

区分	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
重要	細島港	約2,300	約600
	宮崎港	約4,100	約3,000
	油津港	約1,700	約50
	小計	約8,200	約3,700
地方	古江港	約2,300	約1,900
	熊野江港	約410	約410
	延岡港	約1,300	約1,200
	延岡新港	約1,700	約1,700
	美々津港	約1,400	約1,400
	内海港	約1,200	約1,100
	外浦港	約600	約240
	福島港	約2,200	-
	黒井港	約280	約250
	大島港	約540	約240
	大納港	約280	約280
	平岩港	約320	約300
	小計	約12,000	約8,900
	合計		約21,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

港湾 防波堤（想定ケース）

区分	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
重要	細島港	約2,300	約600
	宮崎港	約4,100	約2,600
	油津港	約1,700	約870
	小計	約8,200	約4,000
地方	古江港	約2,300	約1,800
	熊野江港	約410	約410
	延岡港	約1,300	約1,000
	延岡新港	約1,700	約900
	美々津港	約1,400	約1,400
	内海港	約1,200	約1,200
	外浦港	約600	約460
	福島港	約2,200	約700
	黒井港	約280	約250
	大島港	約540	約540
	大納港	約280	約280
	平岩港	約320	約300
	小計	約12,000	約9,200
	合計		約21,000

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

漁港（想定ケース）

種別	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
1	都農漁港	2	2	10	9
1	富田漁港	1	1	6	6
1	野島漁港	1	1	5	3
1	鶯巣漁港			3	1
1	富士漁港			5	3
1	宮浦漁港			4	2
1	鷺戸漁港			5	2
1	夫婦浦漁港	1	-	3	-
1	市木漁港	2	-	9	1
1	本城漁港			7	1
1	福島高松漁港			2	-
2	川南漁港	4	4	6	6
2	青島漁港	3	2	12	9
2	大堂津漁港	5	1	4	1
2	南浦漁港	1	1	13	8
2	都井漁港	2	-	11	1
3	島野浦漁港	12	7	12	8
3	土々呂漁港	3	2	18	11
3	門川漁港	8	6	15	10
3	油津漁港	1	-	15	4
3	目井津漁港	7	1	12	2
4	北浦漁港	13	8	20	12
4	宮之浦漁港	3	-	9	1
合計		69	37	206	100

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

漁港（想定ケース）

種別	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
1	都農漁港	2	2	10	9
1	富田漁港	1	1	6	6
1	野島漁港	1	1	5	3
1	鶯巣漁港			3	2
1	富士漁港			5	3
1	宮浦漁港			4	3
1	鷺戸漁港			5	4
1	夫婦浦漁港	1	1	3	2
1	市木漁港	2	2	9	8
1	本城漁港			7	6
1	福島高松漁港			2	1
2	川南漁港	4	4	6	6
2	青島漁港	3	2	12	9
2	大堂津漁港	5	4	4	3
2	南浦漁港	1	-	13	8
2	都井漁港	2	2	11	10
3	島野浦漁港	12	7	12	8
3	土々呂漁港	3	2	18	12
3	門川漁港	8	5	15	10
3	油津漁港	1	1	15	13
3	目井津漁港	7	6	12	11
4	北浦漁港	13	8	20	13
4	宮之浦漁港	3	3	9	8
合計		69	51	206	158

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通施設被害

漁港 防波堤（想定ケース）

種別	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
1	都農漁港	約1,100	約1,100
1	富田漁港	-	-
1	野島漁港	約550	約550
1	鶯巣漁港	約100	約100
1	富士漁港	約50	-
1	宮浦漁港	約340	約310
1	鵜戸漁港	約380	約380
1	夫婦浦漁港	約150	約90
1	市木漁港	約1,100	約320
1	本城漁港	約240	約110
1	福島高松漁港	約680	-
2	川南漁港	約1,600	約1,300
2	青島漁港	約1,200	約860
2	大堂津漁港	約700	-
2	南浦漁港	約3,900	約3,900
2	都井漁港	約970	約440
3	島野浦漁港	約1,200	約940
3	土々呂漁港	約410	約410
3	門川漁港	約3,200	約3,200
3	目井津漁港	約2,300	約790
4	北浦漁港	約1,700	約1,700
4	宮之浦漁港	約1,500	約1,300
合計		約23,000	約18,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

漁港 防波堤（想定ケース）

種別	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
1	都農漁港	約1,100	約1,100
1	富田漁港	-	-
1	野島漁港	約550	約550
1	鶯巣漁港	約100	約100
1	富士漁港	約50	約50
1	宮浦漁港	約340	約310
1	鵜戸漁港	約380	約190
1	夫婦浦漁港	約150	約150
1	市木漁港	約1,100	約1,100
1	本城漁港	約240	約110
1	福島高松漁港	約680	-
2	川南漁港	約1,600	約1,300
2	青島漁港	約1,200	約540
2	大堂津漁港	約700	約700
2	南浦漁港	約3,900	約3,900
2	都井漁港	約970	約440
3	島野浦漁港	約1,200	約830
3	土々呂漁港	約410	約410
3	門川漁港	約3,200	約1,500
3	目井津漁港	約2,300	約2,300
4	北浦漁港	約1,700	約1,700
4	宮之浦漁港	約1,500	約1,500
合計		約23,000	約19,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
交通施設被害	空港（宮崎空港）

被害様相

地震直後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎空港の大部分が浸水すると想定される。 ・ターミナルビル前面の浸水深は最大 0.5m 程度と想定される。 ・空港内の最大浸水深は東側先端部で発生するが、10m は超えていない。 ・ターミナルビルは、昭和 56 年に改正した建築基準法に適合しており倒壊等の恐れは少ない。管制塔は大地震後でも機能継続が可能。 ・滑走路等の基本施設は液状化の発生が予想されるが、段差等の損傷は軽微と想定される（南海トラフ地震動で照査が必要）。 ・震度 4 以上の揺れにより、滑走路点検等のため一旦閉鎖する。 ・津波により浸水し、漂流物や土砂の漂着、漂流物による施設の破損、場周柵の倒壊などの被害が発生すると想定される。 ・地盤沈下により、空港敷地が沈下した場合、津波による冠水が継続し、復旧が長期化する可能性がある。
1 日後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大津波警報が解除されるまでの間、復旧作業や緊急輸送が滞る。
4 日後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊等の救援機の離着陸に必要な滑走路等の土砂・がれきの除去等が完了し、緊急物資・人員輸送のための暫定運用が開始される。
1 ヶ月後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂やがれきの除去、場周柵の仮復旧等が完了し、民間機の暫定的な運用が再開される。

避難者（想定ケース）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約140,000	約87,000	約53,000	約170,000	約98,000	約72,000	約172,000	約52,000	約121,000
都城市	約5,900	約3,500	約2,300	約20,000	約10,000	約10,000	約13,000	約4,000	約9,400
延岡市	約68,000	約45,000	約24,000	約64,000	約48,000	約16,000	約62,000	約18,000	約43,000
日南市	約17,000	約11,000	約6,000	約17,000	約12,000	約5,100	約15,000	約4,400	約10,000
小林市	約1,200	約740	約490	約4,200	約2,100	約2,100	約2,500	約760	約1,800
日向市	約33,000	約22,000	約11,000	約32,000	約26,000	約6,000	約32,000	約9,700	約23,000
串間市	約2,400	約1,600	約840	約1,600	約980	約600	約1,100	約320	約740
西都市	約11,000	約6,700	約4,500	約15,000	約7,700	約7,700	約16,000	約4,900	約11,000
えびの市	約1,500	約900	約600	約3,400	約1,700	約1,700	約2,600	約770	約1,800
三股町	約1,100	約630	約420	約3,700	約1,800	約1,800	約2,500	約750	約1,800
高原町	約120	約70	約50	約460	約230	約230	約210	約60	約150
国富町	約3,800	約2,300	約1,500	約6,600	約3,300	約3,300	約6,400	約1,900	約4,500
綾町	約870	約520	約350	約1,800	約920	約920	約1,700	約510	約1,200
高鍋町	約13,000	約8,300	約4,800	約13,000	約8,100	約4,600	約14,000	約4,200	約9,800
新富町	約8,500	約5,200	約3,300	約9,900	約5,400	約4,500	約11,000	約3,400	約8,000
西米良村	約30	約20	約10	約90	約50	約50	約60	約20	約40
木城町	約2,400	約1,400	約950	約3,000	約1,500	約1,500	約3,500	約1,000	約2,400
川南町	約7,200	約4,400	約2,800	約9,100	約5,000	約4,100	約9,800	約2,900	約6,900
都農町	約3,900	約2,400	約1,500	約5,200	約2,800	約2,400	約5,400	約1,600	約3,800
門川町	約11,000	約7,400	約3,800	約11,000	約9,300	約1,900	約11,000	約3,300	約7,600
諸塚村	約40	約30	約20	約160	約80	約80	約90	約30	約70
椎葉村	約50	約30	約20	約260	約130	約130	約150	約40	約100
美郷町	約340	約210	約140	約930	約460	約460	約660	約200	約460
高千穂町	-	-	-	約80	約40	約40	約10	-	-
日之影町	約10	約10	-	約60	約30	約30	約20	-	約10
五ヶ瀬町	約10	約10	約10	約90	約40	約40	約20	約10	約10
合計	約333,000	約211,000	約122,000	約393,000	約246,000	約147,000	約383,000	約115,000	約268,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

生活への影響

避難者（想定ケース）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約132,000	約82,000	約50,000	約163,000	約92,000	約70,000	約164,000	約49,000	約115,000
都城市	約6,200	約3,700	約2,500	約21,000	約10,000	約10,000	約14,000	約4,200	約9,700
延岡市	約61,000	約39,000	約21,000	約57,000	約40,000	約17,000	約55,000	約17,000	約39,000
日南市	約27,000	約17,000	約9,900	約31,000	約20,000	約11,000	約32,000	約9,700	約23,000
小林市	約1,200	約720	約480	約4,200	約2,100	約2,100	約2,500	約760	約1,800
日向市	約34,000	約22,000	約12,000	約32,000	約25,000	約6,800	約32,000	約9,700	約23,000
串間市	約7,500	約4,700	約2,800	約8,700	約5,100	約3,600	約8,600	約2,600	約6,100
西都市	約11,000	約6,500	約4,300	約15,000	約7,600	約7,600	約16,000	約4,800	約11,000
えびの市	約1,400	約840	約560	約3,300	約1,600	約1,600	約2,400	約730	約1,700
三股町	約950	約570	約380	約3,400	約1,700	約1,700	約2,300	約680	約1,600
高原町	約160	約90	約60	約610	約310	約310	約320	約100	約230
国富町	約3,700	約2,200	約1,500	約6,500	約3,300	約3,300	約6,300	約1,900	約4,400
綾町	約860	約520	約350	約1,800	約900	約900	約1,700	約500	約1,200
高鍋町	約12,000	約7,400	約4,500	約13,000	約7,200	約5,400	約14,000	約4,200	約9,800
新富町	約8,200	約5,000	約3,200	約10,000	約5,300	約4,800	約12,000	約3,500	約8,200
西米良村	約30	約20	約10	約80	約40	約40	約50	約10	約30
木城町	約2,400	約1,500	約970	約3,000	約1,500	約1,500	約3,500	約1,100	約2,500
川南町	約7,100	約4,300	約2,800	約9,000	約4,900	約4,100	約9,700	約2,900	約6,800
都農町	約3,800	約2,300	約1,500	約5,100	約2,800	約2,300	約5,300	約1,600	約3,700
門川町	約11,000	約7,200	約3,800	約9,900	約7,900	約2,000	約9,600	約2,900	約6,800
諸塚村	約40	約30	約20	約150	約70	約70	約90	約30	約60
椎葉村	約50	約30	約20	約230	約120	約120	約130	約40	約90
美郷町	約330	約200	約130	約900	約450	約450	約640	約190	約440
高千穂町	約10	-	-	約100	約50	約50	約10	-	約10
日之影町	約10	約10	約10	約60	約30	約30	約20	-	約10
五ヶ瀬町	約10	約10	約10	約80	約40	約40	約20	約10	約10
合計	約332,000	約209,000	約123,000	約399,000	約242,000	約157,000	約393,000	約118,000	約275,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

帰宅困難者（想定ケース）

市町村	就業者・ 通学者数 (人)	帰宅困難 者(人)
宮崎市	約190,000	約13,000
都城市	約75,000	約9,100
延岡市	約57,000	約2,800
日南市	約24,000	約1,500
小林市	約19,000	約2,200
日向市	約27,000	約2,200
串間市	約6,300	約640
西都市	約11,000	約1,700
えびの市	約7,400	約1,500
三股町	約6,400	約940
高原町	約2,700	約470
国富町	約6,700	約1,200
綾町	約2,200	約450
高鍋町	約9,100	約1,400
新富町	約6,600	約1,100
西米良村	約520	約120
木城町	約2,400	約510
川南町	約6,000	約850
都農町	約3,000	約500
門川町	約5,900	約650
諸塚村	約720	約110
椎葉村	約1,100	約90
美郷町	約1,900	約390
高千穂町	約5,200	約450
日之影町	約1,400	約220
五ヶ瀬町	約1,100	約110
合計	約479,000	約45,000

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

帰宅困難者（想定ケース）

市町村	就業者・ 通学者数 (人)	帰宅困難 者(人)
宮崎市	約190,000	約13,000
都城市	約75,000	約9,100
延岡市	約57,000	約2,800
日南市	約24,000	約1,500
小林市	約19,000	約2,200
日向市	約27,000	約2,200
串間市	約6,300	約640
西都市	約11,000	約1,700
えびの市	約7,400	約1,500
三股町	約6,400	約940
高原町	約2,700	約470
国富町	約6,700	約1,200
綾町	約2,200	約450
高鍋町	約9,100	約1,400
新富町	約6,600	約1,100
西米良村	約520	約120
木城町	約2,400	約510
川南町	約6,000	約850
都農町	約3,000	約500
門川町	約5,900	約650
諸塚村	約720	約110
椎葉村	約1,100	約90
美郷町	約1,900	約390
高千穂町	約5,200	約450
日之影町	約1,400	約220
五ヶ瀬町	約1,100	約110
合計	約479,000	約45,000

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

生活への影響

物資 需要量 (想定ケース)

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)
宮崎市	約314,000	約1,142,000	約148,000	約353,000	約889,000	約143,000	約186,000	約290,000	約72,000
都城市	約13,000	約329,000	約7,000	約37,000	約173,000	約5,900	約14,000	約25,000	約3,500
延岡市	約161,000	約359,000	約70,000	約173,000	約296,000	約86,000	約66,000	約137,000	約33,000
日南市	約40,000	約126,000	約16,000	約42,000	約84,000	約19,000	約16,000	約28,000	約7,500
小林市	約2,700	約72,000	約1,500	約7,500	約34,000	約1,200	約2,700	約4,200	約740
日向市	約78,000	約183,000	約48,000	約94,000	約169,000	約61,000	約35,000	約101,000	約22,000
串間市	約5,800	約23,000	約1,000	約3,500	約9,800	約1,100	約1,100	約1,600	約490
西都市	約24,000	約81,000	約14,000	約28,000	約66,000	約11,000	約18,000	約22,000	約6,800
えびの市	約3,200	約42,000	約1,800	約6,100	約23,000	約1,500	約2,800	約3,600	約900
三股町	約2,300	約57,000	約1,300	約6,600	約33,000	約1,100	約2,700	約5,000	約630
高原町	約260	約10,000	約150	約840	約4,000	約120	約230	約300	約70
国富町	約8,100	約57,000	約4,500	約12,000	約41,000	約3,800	約7,000	約11,000	約2,300
綾町	約1,900	約19,000	約1,100	約3,300	約13,000	約880	約1,800	約3,100	約530
高鍋町	約30,000	約61,000	約14,000	約29,000	約56,000	約14,000	約15,000	約25,000	約6,500
新富町	約19,000	約54,000	約9,500	約20,000	約49,000	約8,600	約12,000	約23,000	約4,700
西米良村	約60	約910	約40	約170	約410	約30	約60	約50	約20
木城町	約5,100	約15,000	約2,900	約5,400	約13,000	約2,400	約3,700	約6,600	約1,400
川南町	約16,000	約47,000	約9,000	約18,000	約41,000	約8,300	約11,000	約18,000	約4,400
都農町	約8,600	約31,000	約4,700	約10,000	約25,000	約4,300	約5,800	約8,900	約2,300
門川町	約26,000	約54,000	約16,000	約33,000	約51,000	約21,000	約12,000	約34,000	約7,500
諸塚村	約100	約1,200	約50	約280	約560	約40	約100	約70	約30
椎葉村	約120	約1,100	約60	約460	約550	約50	約160	約70	約30
美郷町	約740	約12,000	約410	約1,700	約6,400	約340	約710	約960	約210
高千穂町	約10	約2,600	約10	約150	約800	-	約10	-	-
日之影町	約30	約1,200	約10	約110	約380	約10	約20	約10	約10
五ヶ瀬町	約30	約1,600	約20	約160	約540	約10	約20	約10	約10
合計	約760,000	約2,783,000	約371,000	約885,000	約2,079,000	約396,000	約414,000	約748,000	約177,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

生活への影響

物資 需要量 (想定ケース)

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)
宮崎市	約296,000	約1,136,000	約138,000	約333,000	約867,000	約132,000	約177,000	約270,000	約67,000
都城市	約13,000	約334,000	約7,400	約38,000	約177,000	約6,200	約15,000	約26,000	約3,700
延岡市	約142,000	約354,000	約57,000	約146,000	約277,000	約67,000	約60,000	約106,000	約27,000
日南市	約62,000	約162,000	約35,000	約73,000	約142,000	約38,000	約35,000	約67,000	約17,000
小林市	約2,600	約72,000	約1,400	約7,500	約34,000	約1,200	約2,700	約4,200	約720
日向市	約80,000	約182,000	約40,000	約90,000	約163,000	約51,000	約35,000	約83,000	約18,000
串間市	約17,000	約55,000	約8,200	約18,000	約41,000	約8,200	約9,300	約13,000	約4,000
西都市	約23,000	約81,000	約13,000	約27,000	約66,000	約11,000	約17,000	約22,000	約6,600
えびの市	約3,000	約41,000	約1,700	約5,900	約23,000	約1,400	約2,600	約3,500	約840
三股町	約2,100	約55,000	約1,100	約6,100	約30,000	約950	約2,500	約4,600	約570
高原町	約340	約12,000	約190	約1,100	約5,400	約160	約350	約540	約90
国富町	約8,000	約57,000	約4,400	約12,000	約40,000	約3,700	約6,800	約10,000	約2,200
綾町	約1,900	約19,000	約1,000	約3,300	約13,000	約870	約1,800	約3,000	約520
高鍋町	約26,000	約61,000	約13,000	約26,000	約56,000	約12,000	約15,000	約24,000	約6,300
新富町	約18,000	約54,000	約9,400	約19,000	約49,000	約8,200	約13,000	約24,000	約4,700
西米良村	約60	約850	約30	約150	約350	約30	約50	約30	約20
木城町	約5,300	約15,000	約3,000	約5,500	約13,000	約2,500	約3,800	約6,800	約1,500
川南町	約16,000	約47,000	約8,800	約18,000	約41,000	約8,100	約10,000	約17,000	約4,300
都農町	約8,400	約31,000	約4,700	約10,000	約25,000	約4,300	約5,800	約8,700	約2,300
門川町	約26,000	約53,000	約13,000	約29,000	約47,000	約16,000	約10,000	約24,000	約5,900
諸塚村	約90	約1,100	約50	約270	約540	約40	約100	約70	約30
椎葉村	約120	約1,000	約60	約420	約490	約50	約140	約60	約30
美郷町	約710	約12,000	約390	約1,600	約6,300	約330	約690	約940	約200
高千穂町	約10	約3,100	約10	約180	約960	約10	約10	約10	-
日之影町	約30	約1,200	約20	約110	約390	約10	約20	約10	約10
五ヶ瀬町	約30	約1,600	約20	約150	約520	約10	約20	約10	約10
合計	約753,000	約2,844,000	約362,000	約870,000	約2,119,000	約372,000	約424,000	約720,000	約174,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

医療機能（想定ケース）

市町村	人的被害			要転院 患者数 (人)	医療需要	
	死者 (人)	負傷者 (人)	重傷者 (人)		要入院 (人)	要外来 (人)
宮崎市	約3,100	約8,300	約4,600	約1,800	約6,700	約3,800
都城市	約60	約1,100	約620	約410	約1,000	約470
延岡市	約8,400	約3,800	約1,900	約640	約3,400	約1,900
日南市	約2,100	約1,100	約530	約240	約980	約560
小林市	約10	約240	約130	約120	約260	約100
日向市	約15,000	約3,300	約1,500	約300	約3,300	約1,800
串間市	約320	約220	約100	約30	約160	約120
西都市	約250	約960	約540	約130	約700	約420
えびの市	約20	約360	約200	約40	約250	約160
三股町	約10	約180	約100	約20	約120	約80
高原町	-	約30	約20	約10	約30	約10
国富町	約80	約420	約240	約50	約300	約180
綾町	約20	約130	約80	約10	約80	約60
高鍋町	約1,000	約1,100	約550	約120	約770	約520
新富町	約350	約680	約350	約10	約390	約330
西米良村	-	約10	-	-	約10	-
木城町	約70	約220	約130	-	約130	約100
川南町	約620	約890	約490	約150	約700	約390
都農町	約290	約370	約200	約20	約250	約170
門川町	約3,600	約780	約360	約110	約840	約410
諸塚村	-	約10	-	-	約10	-
椎葉村	-	約20	約10	-	約10	約10
美郷町	約10	約80	約50	約10	約50	約40
高千穂町	-	-	-	約10	約10	-
日之影町	-	-	-	-	約10	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	約10	-
合計	約35,000	約24,000	約13,000	約4,300	約20,000	約12,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

医療機能（想定ケース）

市町村	人的被害			要転院 患者数 (人)	医療需要	
	死者 (人)	負傷者 (人)	重傷者 (人)		要入院 (人)	要外来 (人)
宮崎市	約2,900	約8,000	約4,400	約1,800	約6,500	約3,600
都城市	約70	約1,200	約650	約420	約1,100	約500
延岡市	約4,400	約3,900	約1,900	約610	約3,000	約1,900
日南市	約5,100	約2,800	約1,400	約380	約2,300	約1,400
小林市	約10	約230	約130	約120	約250	約100
日向市	約10,000	約3,500	約1,600	約290	約2,800	約2,000
串間市	約820	約970	約510	約60	約650	約460
西都市	約240	約940	約530	約130	約690	約410
えびの市	約20	約340	約190	約40	約230	約150
三股町	約10	約160	約90	約20	約110	約70
高原町	-	約50	約30	約10	約30	約20
国富町	約80	約410	約230	約50	約290	約180
綾町	約20	約130	約80	約10	約80	約60
高鍋町	約610	約1,000	約530	約110	約700	約480
新富町	約230	約550	約310	約10	約340	約250
西米良村	-	約10	-	-	約10	-
木城町	約70	約230	約130	-	約140	約100
川南町	約600	約860	約480	約150	約690	約380
都農町	約290	約360	約200	約20	約240	約160
門川町	約2,900	約910	約410	約110	約810	約500
諸塚村	-	約10	-	-	約10	-
椎葉村	-	約20	約10	-	約10	約10
美郷町	約10	約80	約40	約10	約50	約30
高千穂町	-	-	-	約10	約10	-
日之影町	-	-	-	-	約10	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	約10	-
合計	約28,000	約27,000	約14,000	約4,400	約21,000	約13,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
生活への影響	保健衛生、防疫、遺体処理等

被害様相

地震発生直後	
避難場所における衛生環境の悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難ビルなどに一時的に避難した住民が、繰り返し襲う津波に対して、避難所へ移動するタイミングを逸し、地震発生時間によっては、夜を明かすことになる。 ・津波による被害が甚大な、沿岸 10 市町を中心に、多数の避難者が避難所に避難し、避難所からあふれる事態が予想される。 ・一人当たりの居住スペースの減少、十分な数の毛布や非常食、仮設トイレ、暖房器具等の不足、健康管理のための医師・保健師等の不足、テントや車中泊による屋外生活者の発生など、保健衛生環境が悪化する。
下水処理機能の支障	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の広範囲にわたり下水処理機能に支障が生じるため、し尿などの処理が滞り、保健衛生環境が悪化する。 ・県内の多くの地域では浄化槽に頼っている。浄化槽は、比較的地震に強い施設・設備であるといわれているが、設置状況などによっては破損等の被害を受け、使用できない状況になることも十分に想定される。

概ね 1 日後～数日後	
遺体捜索、処理等に係る人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・死者・行方不明者の捜索範囲が極めて広範囲となり、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源の多くを投入するため、復旧活動に支障が生じる。 ・死者数が膨大であり、迅速な遺体処理が困難になる。 ・遺体の安置場所、棺、ドライアイスが不足し、夏季には遺体の腐乱等による衛生上の問題が発生する。 ・検死が可能な人員等が不足し、多数の遺体の身元確認が困難となる。

概ね 1 週間後	
暑さ対策の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の避難場所、仮設住宅における暑さ対策が求められるが、対応すべき場所が膨大な数となり、人的・物的資源の両面から対応が遅れる。その結果、高齢者・乳幼児を中心に熱中症や脱水症状、食中毒が発生する。
火葬場の不足、火葬の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの火葬場が強い揺れに見舞われ被災する上に、燃料不足等により火葬が困難となる。 ・火葬が困難な場合、衛生上の問題から土葬や仮埋葬が行われる。
畜舎などへの対策の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の被災、人、燃料、敷材などが不足し、畜舎などの衛生面が悪化し、家畜などへの衛生上の問題が発生する。

概ね 1 年後	
行方不明者捜索の長期化	・ 1 年を経過しても行方不明者の捜索が終わらず、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源を引き続き投入することが必要となる。

災害廃棄物等

災害廃棄物等（想定ケース）

市町村	災害廃棄物(万トン)			災害廃棄物(万m ³)		
	災害廃棄物	津波堆積物	計	災害廃棄物	津波堆積物	計
宮崎市	約260	約110 ~ 約230	約370 ~ 約490	約240	約100 ~ 約160	約340 ~ 約400
都城市	約10		約10	約10		約10
延岡市	約160	約90 ~ 約180	約250 ~ 約340	約150	約80 ~ 約130	約230 ~ 約270
日南市	約40	約30 ~ 約70	約70 ~ 約100	約30	約30 ~ 約40	約60 ~ 約80
小林市	-		-	-		-
日向市	約120	約60 ~ 約120	約180 ~ 約250	約110	約50 ~ 約90	約160 ~ 約200
串間市	-	約40 ~ 約70	約40 ~ 約80	-	約30 ~ 約50	約30 ~ 約50
西都市	約30		約30	約30		約30
えびの市	-		-	-		-
三股町	-		-	-		-
高原町	-		-	-		-
国富町	約10		約10	約10		約10
綾町	-		-	-		-
高鍋町	約30	約20 ~ 約40	約50 ~ 約70	約30	約20 ~ 約30	約50 ~ 約60
新富町	約20	約20 ~ 約40	約30 ~ 約50	約20	約20 ~ 約20	約30 ~ 約40
西米良村	-		-	-		-
木城町	約10		約10	約10		約10
川南町	約20	約10 ~ 約10	約30 ~ 約30	約20	約10 ~ 約10	約30 ~ 約30
都農町	約10	約10 ~ 約20	約20 ~ 約30	約10	約10 ~ 約10	約20 ~ 約20
門川町	約40	約20 ~ 約40	約50 ~ 約80	約30	約20 ~ 約30	約50 ~ 約60
諸塚村	-		-	-		-
椎葉村	-		-	-		-
美郷町	-		-	-		-
高千穂町	-		-	-		-
日之影町	-		-	-		-
五ヶ瀬町	-		-	-		-
合計	約750	約390 ~ 約830	約1,100 ~ 約1,600	約710	約360 ~ 約570	約1,100 ~ 約1,300

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

災害廃棄物等

災害廃棄物等（想定ケース）

市町村	災害廃棄物(万トン)			災害廃棄物(万m ³)		
	災害廃棄物	津波堆積物	計	災害廃棄物	津波堆積物	計
宮崎市	約230	約100 ~ 約220	約330 ~ 約450	約220	約90 ~ 約150	約310 ~ 約370
都城市	約10		約10	約10		約10
延岡市	約120	約70 ~ 約160	約190 ~ 約280	約110	約70 ~ 約110	約180 ~ 約220
日南市	約90	約40 ~ 約70	約120 ~ 約160	約80	約30 ~ 約50	約110 ~ 約130
小林市	-		-	-		-
日向市	約100	約50 ~ 約110	約150 ~ 約210	約90	約50 ~ 約80	約140 ~ 約170
串間市	約20	約50 ~ 約100	約70 ~ 約120	約20	約40 ~ 約70	約60 ~ 約90
西都市	約30		約30	約30		約30
えびの市	-		-	-		-
三股町	-		-	-		-
高原町	-		-	-		-
国富町	約10		約10	約10		約10
綾町	-		-	-		-
高鍋町	約30	約10 ~ 約30	約40 ~ 約60	約30	約10 ~ 約20	約40 ~ 約50
新富町	約20	約10 ~ 約30	約30 ~ 約50	約20	約10 ~ 約20	約30 ~ 約40
西米良村	-		-	-		-
木城町	約10		約10	約10		約10
川南町	約20	約10 ~ 約10	約30 ~ 約30	約20	約10 ~ 約10	約30 ~ 約30
都農町	約10	約10 ~ 約20	約20 ~ 約30	約10	約10 ~ 約10	約20 ~ 約20
門川町	約30	約20 ~ 約40	約40 ~ 約60	約20	約20 ~ 約20	約40 ~ 約50
諸塚村	-		-	-		-
椎葉村	-		-	-		-
美郷町	-		-	-		-
高千穂町	-		-	-		-
日之影町	-		-	-		-
五ヶ瀬町	-		-	-		-
合計	約720	約370 ~ 約790	約1,100 ~ 約1,500	約680	約340 ~ 約540	約1,000 ~ 約1,200

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

その他の被害

エレベータ内閉じ込め（想定ケース）

市町村	閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数（棟）		閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数（台）		エレベータ閉じ込め者数（人）					
					冬深夜		夏12時		冬18時	
	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅
宮崎市	約60	約150	約130	約290	-	-	約10	約10	約10	約10
都城市	約10	約10	約20	約10	-	-	-	-	-	-
延岡市	約10	約120	約10	約250	-	-	-	-	-	-
日南市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	約50	約10	約90	-	-	-	-	-	-
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都農町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約90	約330	約180	約660	-	-	約20	約10	約10	約20

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

その他の被害

エレベータ内閉じ込め（想定ケース）

市町村	閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数（棟）		閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数（台）		エレベータ閉じ込め者数（人）					
					冬深夜		夏12時		冬18時	
	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅
宮崎市	約60	約150	約130	約290	-	-	約10	約10	約10	約10
都城市	約10	約10	約20	約10	-	-	-	-	-	-
延岡市	約10	約120	約10	約250	-	-	-	-	-	-
日南市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	約50	約10	約90	-	-	-	-	-	-
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都農町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約90	約330	約180	約650	-	-	約20	約10	約10	約20

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
その他の被害	長周期地震動

被害様相

地震発生直後	
上層階における揺れの増幅	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の高層ビルでは、揺れ始めに気付いた時点から、徐々に大きくゆっくりとした揺れになる。 ・地表の揺れが小さい遠隔地においても、高層ビルの上層階では揺れが大きく増幅する。 ・建物全体で見た場合、必ずしも最上階で揺れが最大となるとは限らず、高次モードの影響により、中間階においても局部的に応答が増幅する場合がある。 ・上層階の多くの人々が、揺れによって動作上の支障があり、吐き気やめまいを感じる人も発生する。
屋内収容物転倒・落下による人的被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・固定していない家具・什器の転倒、コピー機等のキャスター付什器の滑りによって、人的被害が発生する。 ・家具・什器を固定していても、正しい方法により固定されていない場合、本来の固定効果が発揮されず、転倒や滑りによる人的被害が発生する場合がある。
全館一斉避難の発生避難中の二次災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れに対する不安から、地上へ避難しようとする人が多数発生する。 ・建築物の防災設計は火災からの特定階避難を前提としているが、「全館一斉避難」が発生した場合、非常階段等に多数の在館者が殺到し、転倒等による二次災害が発生する。
建物被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・地震動の卓越周期と建物の固有周期が一致した場合、揺れが大きく増幅する。 ・病院などの中低層免震においても、免震層許容変位量を超える大変位やエキスパンションジョイント被害等が発生する場合がある。
建物内被害状況確認における支障	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベータが停止しているため、階段での移動が必要となり、大規模な建物であるほど各フロアの被害確認に多くの時間・労力を要する。 ・被災の影響により技術者の数が不足し、構造安全性の詳細確認までに1週間以上を要する。

概ね1日後～数日後	
事業継続・生活機能継続への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスビルでは、非常用発電機の無給油連続運転時間は最長3日間程度であり、系統電力の供給停止が長期化した場合、事業継続が困難となる。 ・エレベータが止まったマンションでは、停電・断水等によりいわゆる「高層難民」となる上層階居住者が多数発生する。特に階段の昇降に必要な体力が低下している高齢者等にとって、生活を継続することが困難となる場合がある。
地域防災貢献への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に行政と協定を締結していた高層ビルでも、安全確認に時間を要するなどの理由により、災害時の施設利用による地域貢献ができなくなる。

区分	項目
その他の被害	道路閉塞

被害様相

地震発生直後	
沿道の建造物の倒壊、火災等による道路閉塞の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・幅員の狭い道路を中心として、沿道の建物被害により道路が閉塞し、緊急通行車両等の通行が妨げられる。 ・閉塞の程度によっては、人の避難が妨げられる。
消火活動への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・道路閉塞により、消防自動車が行き止まりになるなどにより延焼が拡大する。
救命・救急活動の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・救急自動車の通行が困難となることなどにより、負傷者等の医療機関への搬送が遅れ、人的被害が拡大する。

概ね1日後～数日後	
道路閉塞に伴う緊急車両の通行路の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・道路啓開の実施により、徐々に緊急通行車両等の通行が可能となる。

区分	項目
その他の被害	道路上の自動車への落石・崩土

被害様相

地震発生直後	
道路上の自動車への落石・崩土による巻き込まれ	<ul style="list-style-type: none"> ・走行中の自動車が、地震による落石や崩土に巻き込まれ、死傷者等が発生する。
救命・救急、復旧作業のための人的・物的資源	<ul style="list-style-type: none"> ・落石や崩土に巻き込まれた被災者を発見・救助するための赤外線探知機等の機材が必要となる。 ・危険な場所での作業となるため、レスキュー部隊等の特殊な人的資源が必要となる。 ・土砂の崩壊を避けるための適切な指示を行う専門家等の派遣が必要となる。
二次災害の危険	<ul style="list-style-type: none"> ・救出・救助作業中の余震等により、落石や崩土等が再度発生し、被災者や救助部隊等が二次被災する。
深層崩壊の危険	<ul style="list-style-type: none"> ・北部の耳川上流などでは、揺れによって深層崩壊が引き起こされ、自動車などが巻き込まれる可能性があるが、規模が大きいため、その実態の把握には時間を要することになる。

区分	項目
その他の被害	交通人的被害（道路）

被害様相

地震発生直後	
ドライバーの運転ミスによる交通事故	・揺れに驚いたドライバーがハンドル操作を誤り、交通事故が発生する。
橋梁の落橋・倒壊に伴う事故	・揺れによって橋梁が落下または倒壊し、反応が遅れたドライバーが巻き込まれる。
道路への落石、斜面崩壊、道路の陥没等による交通事故	・揺れによって落石、斜面崩壊、道路の陥没等が発生し、反応が遅れたドライバーが道路上の障害物を避けきれず、交通事故が発生する。
運転中に津波に巻き込まれる	・道路上を走行中（または避難中）に津波に巻き込まれる。 ・渋滞によって車両の走行が困難な状況の中、車の中に取り残され、津波に巻き込まれる。
交通施設が機能停止することによる交通事故	・信号機や道路照明が停電等で機能停止し、ドライバーの混乱により交通事故が発生する。
道路渋滞による緊急搬送車両（医師や負傷者の搬送等）の遅れによる症状悪化	・倒壊した建物や落下物等による道路閉塞、交通事故の発生等により、緊急搬送車両（医師や負傷者の搬送等）の通行の支障となり、二次的な人的被害が発生する。
地下トンネルや地下駐車場の浸水による人的被害	・鉄道のアンダーパス、地下道や地下駐車場が津波浸水することにより人的被害が発生する。

区分	項目
その他の被害	交通人的被害（鉄道）

被害様相

地震発生直後	
運行中の揺れによる脱線・衝突事故	・揺れによって脱線・衝突事故が発生し、人的被害が発生する。
運行中の列車が津波にのみ込まれる	・走行中の列車は大きな揺れや津波警報を受けて停止するが、乗客の避難が遅れて津波に巻き込まれる。
急停車等の措置に伴う人的被害	・揺れを感知して急停車することにより、乗客の中にけが人等が発生する。
列車からの避難中のけが	・乗客が列車から避難する際に軌道上等の避難ルートでけがをする。
車両の脱線・落下事故等による線路周辺の住民の人的被害	・列車の脱線や高架からの落下事故等が発生し、線路周辺の地域の住民に人的被害が発生する。

その他の被害

災害時要援護者（想定ケース）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約28,000	約17,000	約11,000	約34,000	約20,000	約14,000	約34,000	約10,000	約24,000
都城市	約1,300	約810	約540	約4,700	約2,300	約2,300	約3,100	約920	約2,200
延岡市	約16,000	約10,000	約5,400	約15,000	約11,000	約3,600	約14,000	約4,200	約9,900
日南市	約5,200	約3,400	約1,800	約5,100	約3,500	約1,500	約4,400	約1,300	約3,000
小林市	約340	約210	約140	約1,200	約580	約580	約710	約210	約500
日向市	約6,900	約4,600	約2,400	約6,800	約5,500	約1,300	約6,800	約2,000	約4,800
串間市	約710	約460	約240	約460	約280	約170	約310	約90	約210
西都市	約2,900	約1,700	約1,200	約4,000	約2,000	約2,000	約4,200	約1,300	約3,000
えびの市	約400	約240	約160	約920	約460	約460	約690	約210	約490
三股町	約250	約150	約100	約880	約440	約440	約600	約180	約420
高原町	約30	約20	約10	約120	約60	約60	約50	約20	約40
国富町	約900	約540	約360	約1,600	約790	約790	約1,500	約460	約1,100
綾町	約190	約120	約80	約400	約200	約200	約380	約110	約260
高鍋町	約3,000	約1,900	約1,100	約2,900	約1,900	約1,100	約3,200	約960	約2,200
新富町	約1,600	約990	約620	約1,900	約1,000	約860	約2,200	約650	約1,500
西米良村	約10	約10	-	約30	約10	約10	約20	約10	約10
木城町	約450	約270	約180	約570	約280	約280	約660	約200	約460
川南町	約2,000	約1,200	約790	約2,600	約1,400	約1,100	約2,700	約820	約1,900
都農町	約860	約530	約340	約1,100	約620	約520	約1,200	約360	約830
門川町	約2,400	約1,600	約830	約2,400	約2,000	約410	約2,400	約720	約1,700
諸塚村	約10	約10	約10	約50	約20	約20	約30	約10	約20
椎葉村	約20	約10	約10	約70	約40	約40	約40	約10	約30
美郷町	約110	約70	約40	約300	約150	約150	約210	約60	約150
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約20	約10	約10	約10	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
合計	約73,000	約47,000	約27,000	約87,000	約54,000	約32,000	約84,000	約25,000	約59,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

その他の被害

災害時要援護者（想定ケース）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
		避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
宮崎市	約26,000	約16,000	約10,000	約33,000	約18,000	約14,000	約33,000	約9,800	約23,000
都城市	約1,400	約850	約570	約4,800	約2,400	約2,400	約3,200	約960	約2,200
延岡市	約14,000	約9,100	約4,900	約13,000	約9,300	約3,900	約13,000	約3,800	約8,900
日南市	約8,100	約5,200	約3,000	約9,300	約6,100	約3,200	約9,700	約2,900	約6,800
小林市	約340	約200	約130	約1,200	約580	約580	約710	約210	約490
日向市	約7,100	約4,700	約2,400	約6,700	約5,200	約1,400	約6,800	約2,000	約4,700
串間市	約2,200	約1,400	約810	約2,500	約1,500	約1,000	約2,500	約750	約1,800
西都市	約2,800	約1,700	約1,100	約3,900	約2,000	約2,000	約4,200	約1,200	約2,900
えびの市	約380	約230	約150	約890	約440	約440	約660	約200	約460
三股町	約230	約140	約90	約810	約410	約410	約550	約160	約380
高原町	約40	約20	約20	約150	約80	約80	約80	約20	約60
国富町	約890	約530	約350	約1,600	約780	約780	約1,500	約450	約1,100
綾町	約190	約110	約80	約400	約200	約200	約370	約110	約260
高鍋町	約2,700	約1,700	約1,000	約2,900	約1,700	約1,200	約3,200	約970	約2,300
新富町	約1,600	約950	約610	約1,900	約1,000	約900	約2,200	約670	約1,600
西米良村	約10	約10	-	約30	約10	約10	約10	-	約10
木城町	約460	約280	約190	約580	約290	約290	約670	約200	約470
川南町	約2,000	約1,200	約770	約2,500	約1,400	約1,100	約2,700	約810	約1,900
都農町	約840	約510	約330	約1,100	約610	約520	約1,200	約350	約820
門川町	約2,400	約1,600	約830	約2,200	約1,700	約430	約2,100	約640	約1,500
諸塚村	約10	約10	約10	約50	約20	約20	約30	約10	約20
椎葉村	約20	約10	約10	約70	約30	約30	約40	約10	約30
美郷町	約110	約60	約40	約290	約140	約140	約200	約60	約140
高千穂町	-	-	-	約10	約10	約10	-	-	-
日之影町	-	-	-	約20	約10	約10	約10	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
合計	約74,000	約47,000	約27,000	約90,000	約54,000	約35,000	約88,000	約26,000	約62,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

その他の被害

災害時要援護者（想定ケース）

（ 1週間後の避難所避難者に占める ）

市町村	65歳以上の単身高齢者(人)	5歳未満の乳幼児(人)	身体障害者(人)	知的障害者(人)	精神障害者(人)	要介護認定者(要支援者を除く)(人)	難病患者(人)	妊産婦(人)	外国人(人)
宮崎市	約3,900	約4,700	約4,700	約700	約590	約2,700	約750	約1,500	約340
都城市	約470	約480	約620	約100	約40	約410	約90	約100	約50
延岡市	約2,100	約2,100	約2,800	約470	約180	約2,100	約340	約660	約100
日南市	約1,200	約410	約820	約140	約50	約590	約90	約120	約80
小林市	約190	約110	約120	約20	約20	約90	約20	約10	約10
日向市	約880	約1,200	約1,500	約280	約180	約820	約210	約240	約80
串間市	約70	約40	約70	約10	-	約50	約10	約10	約10
西都市	約650	約310	約480	約80	約40	約320	約60	約60	約20
えびの市	約100	約60	約140	約20	約10	約100	約10	約10	約10
三股町	約120	約110	約90	約10	約10	約60	約10	約20	約10
高原町	約10	約10	約20	-	-	約10	-	-	-
国富町	約260	約120	約190	約30	約10	約130	約30	約20	約10
綾町	約20	約40	約60	約10	-	約40	約10	約10	-
高鍋町	約580	約360	約390	約70	約40	約220	約50	約120	約20
新富町	約190	約260	約260	約40	約30	約150	約40	約50	約20
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約70	約70	約60	約10	約10	約50	-	約10	-
川南町	約580	約220	約280	約50	約20	約190	約20	約20	約10
都農町	約150	約130	約140	約20	約10	約100	約20	約30	約10
門川町	約380	約540	約510	約90	約80	約290	約70	約80	約30
諸塚村	約10	-	約10	-	-	約10	-	-	-
椎葉村	約10	約10	約10	-	-	約10	-	-	-
美郷町	約40	約10	約40	約10	-	約30	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約12,000	約11,000	約13,000	約2,200	約1,300	約8,600	約1,800	約3,000	約800

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

その他の被害

災害時要援護者（想定ケース）

（ 1週間後の避難所避難者に占める人数 ）

市町村	65歳以上の単身高齢者(人)	5歳未満の乳幼児(人)	身体障害者(人)	知的障害者(人)	精神障害者(人)	要介護認定者(要支援者を除く)(人)	難病患者(人)	妊産婦(人)	外国人(人)
宮崎市	約3,700	約4,400	約4,400	約660	約550	約2,600	約710	約1,400	約330
都城市	約480	約500	約640	約110	約40	約430	約90	約110	約50
延岡市	約1,800	約1,700	約2,300	約390	約150	約1,800	約290	約560	約80
日南市	約2,000	約700	約1,400	約240	約90	約1,000	約150	約220	約140
小林市	約190	約110	約120	約20	約20	約90	約20	約10	約10
日向市	約840	約1,100	約1,400	約270	約170	約780	約200	約230	約70
串間市	約390	約210	約370	約70	約20	約280	約40	約60	約30
西都市	約640	約300	約470	約70	約40	約310	約60	約50	約20
えびの市	約100	約60	約130	約20	約10	約100	約10	約10	約10
三股町	約110	約100	約80	約10	約10	約60	約10	約20	約10
高原町	約10	約10	約30	-	-	約10	-	-	-
国富町	約250	約110	約190	約30	約10	約130	約30	約20	約10
綾町	約20	約40	約60	約10	-	約40	約10	約10	-
高鍋町	約520	約330	約350	約60	約30	約200	約50	約110	約10
新富町	約180	約250	約250	約40	約30	約150	約40	約50	約20
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約70	約70	約60	約10	約10	約50	-	約10	-
川南町	約570	約220	約280	約50	約20	約190	約20	約20	約10
都農町	約150	約130	約140	約20	約10	約100	約20	約30	約10
門川町	約330	約460	約430	約70	約60	約250	約60	約60	約20
諸塚村	約10	-	約10	-	-	約10	-	-	-
椎葉村	約10	-	約10	-	-	約10	-	-	-
美郷町	約40	約10	約40	約10	-	約30	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約12,000	約11,000	約13,000	約2,200	約1,300	約8,600	約1,800	約3,000	約840

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

区分	項目
その他の被害	震災関連死

被害様相

地震発生直後	
津波による低体温症	・津波に巻き込まれ、水に濡れた状態で低体温症となり死亡する。
日常的な治療が困難となることによる死亡	・人工心臓や生命維持装置の電気を必要とする医療器具が、停電により停止し死亡する。 ・人工呼吸器の酸素ポンペが備蓄されておらず、吸引患者が死亡する。 ・地震発生直後の病院の被害、停電・断水等ライフライン被害が継続し、人工透析ができずに患者が死亡する。

概ね1日後～数日後	
避難所等の劣悪な生活環境による心身の健康被害	・車中避難のように狭い場所で生活を続けた結果、静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）を発症し死亡する。 ・高齢者等が、トイレに行く回数を減らすために水分を取らず、脱水症状等により死亡する。 ・多数の避難者が共同生活を送る中で、インフルエンザが蔓延し、重症化して死亡する。 ・避難所生活等の強いストレスから、慢性的な疾患の悪化等により死亡する。 ・医薬品が不足し、常用薬を必要とする有病者の体調が悪化し死亡する。
遠距離の避難・移動中に死亡	・入院患者や、寝たきりの高齢者等が、津波の浸水地域や、ライフラインが途絶した地域から、バス等により長時間の避難をせざるを得なくなり、移動中に病状が悪化し死亡する。
猛暑による熱中症	・夏季の避難所での生活や、炎天下での救助・救出、がれき撤去等の作業中に熱中症となり死亡する。

概ね1か月後～	1年後以降も同様
精神的ストレスに伴う疾患や自殺等	・家族や仕事を失う等の大きな精神的ストレスから、アルコール摂取量が増え健康を害する、悲観的になり自殺を図る等により死亡する。
災害応急対策活動に伴う過労	・行政職員やボランティア、避難所運営にあたった住民等が、過酷な災害応急対策業務により過労死または精神的ストレスによる自殺等を図り、死亡する。
生活環境の変化等に伴う死亡	・生活不活発等により健康を害し、死亡する避難者や在宅者が発生する。

区分	項目
その他の被害	宅地造成地

被害様相

地震発生直後	
建物被害	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎市をはじめ、台地などを切ったり、盛ったりすることで造成された大規模宅地が多く存在する。地震時には切盛境界などで地盤変状が発生し、宅地造成地が崩壊することにより建物被害が発生する。 全半壊に至らない建物についても、地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により居住が困難となる。
ライフライン途絶	<ul style="list-style-type: none"> 造成地の地下の上下水道管やガス管、地上の電柱・電線類は、切盛境界の変異などの被害により、全半壊を免れた住宅であっても、ライフラインが機能せず、避難を余儀なくされる。

概ね1日後～数日後	
二次災害の不安	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊した地盤が、降雨等によって再度崩れ、建物被害や人的被害が拡大する。
交通困難	<ul style="list-style-type: none"> 宅地造成地が崩壊する地域では、道路が途絶・陥没し自宅外への移動が困難となるほか、近隣の避難所等への物資の輸送、また復旧のための車両等の移動が妨げられ、復旧が遅れる。

概ね1か月後～	1年後以降も同様
住民の生活不安	<ul style="list-style-type: none"> 建物の被害が比較的軽微であっても、地盤が崩壊しているために所有者が別の場所への建て替えを希望するが、復旧費用の十分な補助が得られず復旧が困難となる。 建物の被害が軽微である場合でも、ライフラインや道路の途絶、また軽微な傾斜によって健康不安となる等、所有者にとっては大きな生活上の不便や不安が生じる。 上記のように、自宅での生活が不便を強いられる一方で、再建方針が定まらず避難所等での生活が長期化する。

区分	項目
その他の被害	危険物施設

被害様相

地震発生直後	
施設の被害	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県には法律で指定されているようなコンビナートはないが、北部地域には、わが国有数の化学メーカーがあり、原材料などの多くをタンクなどで保管している。地震や津波の影響が大きい場合には、タンクや配管等の火災、流出等の被害が発生する。 ・大規模なタンク等は、おおむね耐震対策等が完了しており、既知の地震動による流出の危険性は極めて低いと考えられる。 ・長周期地震動の影響が大きい場合には、タンク等が振動するスロッシングによる被害が発生する。
周辺への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・タンクの火災は、当該タンクに限定される場合が多く、その場合には放射熱の周辺への影響は小さい。 ・毒性ガスや可燃性ガスが大量に漏洩した場合には、区域を越えて周辺に影響が及ぶ。

概ね 1 日後～数日後	
復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・タンク被害等に被害が限定される場合には、他のタンクを利用する等の代替措置により、早い段階から機能継続が図られる。

概ね 1 か月後	
事業再開の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・地震被害の範囲が大きい場合には点検及び修復に相当の期間を要する。 ・浸水の影響が大きい場合には、浸水した機器の復旧等のために、事業再開に相当の期間を要する。 ・雇用の多くを県内数社の大手メーカーに依存しているため、事業再開の遅れは、県内経済に大きな打撃を与える。

区分	項目
その他の被害	大規模集客施設等

被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物被害	<ul style="list-style-type: none"> ・強い揺れに伴い建物が全半壊する。 ・耐震性を有する建物でも傾斜等により中長期にわたって利用できなくなるものが発生する。
揺れによる非構造部材の被害	<ul style="list-style-type: none"> ・天井のパネル、壁面、ガラス、商品、棚、吊りモノ等の非構造部材等が落下する。
構造物及び非構造部材の被害による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れによる非構造部材の被害により施設利用者が死傷する。
津波による建物被害（浸水）機能支障	<ul style="list-style-type: none"> ・低層階や地下階が津波によって浸水することにより、中長期の機能支障、営業停止となる。 ・非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水によってそれらが使用できなくなるため、停電状況下では施設運営が困難となる。
津波による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・津波による浸水被害が発生する。施設管理者から利用者に向けての津波警報伝達や避難誘導が遅れば、利用者が逃げ遅れることにより、多くの人的被害が発生する。 ・津波避難ビルに指定されている大規模集客施設でも、避難誘導等が円滑になされず、指定階以上の階数への避難が遅れば、利用者あるいは周辺から避難してきた多くの人々が津波に巻き込まれる。
エレベータ閉じ込め	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模集客施設はエレベータ等が多く設置されている場合が多く、また営業中であれば搭乗率も高いことから、地震の揺れによりエレベータの閉じ込め事案が多数発生する。
エスカレーターにおける人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・エスカレーター等が多く設置されている大規模集客施設で転倒事故等が発生する。
停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内において、停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等が発生する。 ・火災によるスプリンクラー稼働により、店舗の商品等が被害を受ける。
ガス爆発、火災による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災に拡大し、多くの人的被害が発生する。 ・施設管理者から利用者に対して適切な避難誘導がなされなければ、より被害が拡大する。
利用者等の滞留	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の被害状況、交通機関の被害状況によっては、多くの利用者が円滑に脱出・帰宅できない。 ・人口密集地に立地する施設、地域の拠点となる施設等については、地震や津波の発生により周辺の住民が避難してくる。
利用者等の混乱、パニック	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの利用者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高層ビル等の場合は心理面でパニックが助長される。 ・混雑状況が激しい場合、集団転倒などにより人的被害が発生する。
スポーツ団体のキャンプ時における混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県は晴天率の高さ温暖な気候のため、春と秋に多くのスポーツ団体がキャンプを行い、他県から多くの観光客が訪れ、地理に不慣れな人々が団体でいることにより、避難時に困難が生じる。

区分	項目
その他の被害	宮崎駅等

被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物被害	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性を有する建物も地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により中長期にわたって利用できなくなると考えられる。
揺れによる非構造部材の被害	<ul style="list-style-type: none"> 天井のパネル、壁面、ガラス、吊りモノ等が落下する。
構造物及び非構造部材の被害による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> 揺れによる非構造部材の被害により施設利用者が死傷する。
津波による建物被害（浸水）機能支障	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎駅自体は浸水エリアの外と予測されているが、周辺の多くは水につかる。駅周辺のオープンスペースに、多くの避難者などが集まることが想定される。 浸水エリア駅等においても、非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水によってそれらが使用できなくなるため、停電状況下では施設運営が困難となる。
停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等の発生	<ul style="list-style-type: none"> 施設内において、停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等が発生する。 火災によるスプリンクラー稼働により、店舗の商品等が被害を受ける。
ガス爆発、火災による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災に拡大し、多くの人的被害が発生する。 施設管理者から利用者に対して適切な避難誘導がなされなければ、被害が一層拡大する。 地震による停電状況下において、放送設備等が使えない状況も想定される。
利用者等の滞留	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県内の鉄道利用者は一日平均 2.3 万人（平成 22 年度）、そのうち日豊本線が 1.9 万人とほぼ大半を占め、最大の宮崎駅で 0.4 万人、次いで南宮崎駅で 0.2 万人である。駅には周辺地区から鉄道利用者等が押し寄せる。 周辺の被害状況、交通機関の被害状況によっては、多くの利用者が円滑に脱出・帰宅できない状況が発生する。 宮崎駅などは高架化されているために、津波の発生により周辺の住民が避難してくる。
利用者等の混乱、パニック	<ul style="list-style-type: none"> 多くの利用者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する。

その他の被害

文化財（想定ケース）
（被災可能性のある重要文化財）

市町村	総数 (施設)	要因別内訳(施設)		
		揺れ	火災	津波浸水
宮崎市	6	6	0	0
都城市	2	0	0	0
延岡市	0	0	0	0
日南市	0	0	0	0
小林市	0	0	0	0
日向市	0	0	0	0
串間市	1	0	0	0
西都市	1	1	0	0
えびの市	1	0	0	0
三股町	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	1	1	0	0
綾町	0	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	0	0	0	0
木城町	0	0	0	0
川南町	0	0	0	0
都農町	1	1	0	0
門川町	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0	0
椎葉村	1	0	0	0
美郷町	1	0	0	0
高千穂町	2	0	0	0
日之影町	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0
合計	17	9	0	0

（注1）重要文化財の件数は、宮崎県教育庁文化財課「平成25年度 宮崎県文化財行政要覧」に掲載されている、重要文化財17件（美術工芸品8件、建造物9件）（平成25年4月1日指定分まで）を対象としています。

その他の被害

文化財（想定ケース）
（被災可能性のある重要文化財）

市町村	総数 (施設)	要因別内訳(施設)		
		揺れ	火災	津波浸水
宮崎市	6	6	0	0
都城市	2	0	0	0
延岡市	0	0	0	0
日南市	0	0	0	0
小林市	0	0	0	0
日向市	0	0	0	0
串間市	1	1	0	0
西都市	1	1	0	0
えびの市	1	0	0	0
三股町	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	1	1	0	0
綾町	0	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	0	0	0	0
木城町	0	0	0	0
川南町	0	0	0	0
都農町	1	1	0	0
門川町	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0	0
椎葉村	1	0	0	0
美郷町	1	0	0	0
高千穂町	2	0	0	0
日之影町	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0
合計	17	10	0	0

（注1）重要文化財の件数は、宮崎県教育庁文化財課「平成25年度 宮崎県文化財行政要覧」に掲載されている、重要文化財17件（美術工芸品8件、建造物9件）（平成25年4月1日指定分まで）を対象としています。

その他の被害

孤立集落（想定ケース）
（孤立可能性のある集落数）

市町村	総数 (箇所)	農業集落 (箇所)	漁業集落 (箇所)	計 (箇所)
宮崎市	27	4	5	9
都城市	19	0	0	0
延岡市	34	1	15	16
日南市	22	2	3	5
小林市	2	0	0	0
日向市	17	6	8	14
串間市	24	1	4	5
西都市	16	8	0	8
えびの市	5	0	0	0
三股町	6	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	0	0	0	0
綾町	6	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	15	0	0	0
木城町	9	4	0	4
川南町	1	1	0	1
都農町	5	4	0	4
門川町	2	1	0	1
諸塚村	31	0	0	0
椎葉村	64	0	0	0
美郷町	48	2	0	2
高千穂町	94	0	0	0
日之影町	70	0	0	0
五ヶ瀬町	58	0	0	0
合計	575	34	35	69

（注1）孤立集落の箇所数は、「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査 内閣府平成22年」において、孤立可能性があるとされた集落を対象としています。

その他の被害

孤立集落（想定ケース）
（孤立可能性のある集落数）

市町村	総数 (箇所)	農業集落 (箇所)	漁業集落 (箇所)	計 (箇所)
宮崎市	27	5	5	10
都城市	19	0	0	0
延岡市	34	1	15	16
日南市	22	6	5	11
小林市	2	0	0	0
日向市	17	6	8	14
串間市	24	5	17	22
西都市	16	7	0	7
えびの市	5	0	0	0
三股町	6	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	0	0	0	0
綾町	6	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	15	0	0	0
木城町	9	6	0	6
川南町	1	1	0	1
都農町	5	5	0	5
門川町	2	0	0	0
諸塚村	31	0	0	0
椎葉村	64	0	0	0
美郷町	48	1	0	1
高千穂町	94	0	0	0
日之影町	70	0	0	0
五ヶ瀬町	58	0	0	0
合計	575	43	50	93

（注1）孤立集落の箇所数は、「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査 内閣府平成22年」において、孤立可能性があるとされた集落を対象としています。

区分	項目
その他の被害	災害応急対策等

被害様相

地震発生直後	
庁舎の被害発生	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の揺れや津波浸水により庁舎が被災する。 ・代替施設への移転作業により、作業量が増加する。
電源の喪失による業務の混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用電源が確保できないことにより、電話等による通信ができなくなるほか、庁舎内ネットワークがダウンし、各種証明書の発行や情報発信ができなくなるなど、業務が大混乱する。
通信途絶による災害応急対策の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・被害情報収集、情報伝達、他市町村との情報交換ができなくなる。 ・連絡システムの不具合により住民等への適切な情報伝達等の初動対応が困難となる。 ・災害情報の収集・整理がままならず、適切な対応ができない。 ・発災直後から各機関・マスコミのヘリコプターなどが活用されるが、被害の全体像の把握に時間を要するなど、効率的な情報共有ができない。
職員の被災	<ul style="list-style-type: none"> ・初動期に情報収集を行うべき自治体職員の多くが被災し、正確な情報を早期に収集することができない。 ・知事、幹部職員等の被災による指揮命令権者の不在により、災害対応や平常時業務が混乱する。 ・日中に地震が発生した場合、職員の家族の安否確認にも支障が生じ、不安を抱えたままの業務遂行で、著しく効率が低下することが考えられる。
人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・膨大な量の災害応急対策業務に対して国・自治体の職員や資機材の絶対数が不足する。
避難所設置の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の被災や道路の途絶、避難所自体の被災により避難所の設置・運営ができなくなる。

概ね数日後	
庁舎の被害による業務への支障	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎の倒壊のおそれがある場合、災害対策本部を別途設置する必要がある。 ・従前と執務環境が異なることにより、業務効率が低下する。
人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・膨大な量の災害応急対策業務に対して国・自治体の職員や資機材の絶対数の不足が継続する。 ・インフラやライフラインの応急復旧が進まず、被災者支援が十分になされない。

概ね1年後～	
庁舎の被害による業務への支障	<ul style="list-style-type: none"> ・通常業務及び復旧・復興業務で庁内の作業量が増大する一方で、庁舎の再建が進まず、執務環境が整わないために業務の遅延、職員の疲労につながる。

区分	項目
その他の被害	堰堤、ため池等の決壊

被害様相

地震発生直後	
古い堰堤、ため池等の決壊	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと風水害に弱い火山灰特殊土壌に覆われるなど災害が発生しやすい条件であり、老朽化したため池を筆頭に、地震時決壊する可能性が高い。 ・破堤に伴いため池の下流側の集落へ氾濫水が流下し、集落の一部が浸水する。 ・ため池の下流側の水田や畑地などが浸水し、農作物が浸水によって流出する。 ・多量の氾濫水とともに周辺の樹木や土砂など流下し、それらに巻き込まれて死傷者が発生する。
概ね 1 日後～数日後	
浸水による被害	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水した集落では、家屋の一部が損傷するなど地震による被害に加えて浸水による被害についても対応する必要がある。
災害廃棄物の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫水が床上まで浸水した家屋では、家具等が使用できなくなる。また、床下浸水があった家屋でも土砂が多量に堆積することから、それらの処理が必要となる。

区分	項目
その他の被害	地盤沈下による長期湛水

被害様相

概ね数日後～	
避難所の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者が増加する一方で、利用可能な避難所数が減少し、避難スペースの不足や被災地外への広域避難を余儀なくされる。
被災地内の移動困難に伴う災害応急対策及び日常生活の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県沿岸で 0.2～0.9m の地殻変動による地盤沈下が生じており、多くの地域が満潮時には海水面以下になる恐れがある。 ・湛水エリアが通行できないことによる避難所等への物資配送が困難となる。 ・自宅等で生活可能な人々が、湛水エリアを通行できないことにより日常生活上で様々な不便が発生する。
災害応急対策の活動拠点の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・応援部隊、ライフライン・インフラ等の復旧部隊の駐留場所や資材置き場、がれき仮置き場等のオープンスペースが不足する。

概ね 1 か月後～	1 年後以降も同様
復旧作業の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・埋設管、電柱等の復旧ができず仮復旧が遅れる。 ・湛水エリアにおける排水・土地の嵩上げ・防潮堤の新設等、インフラや建物建設を開始する前の基盤整備が必要となり、復旧作業の長期化、作業人員の不足、膨大なコスト等の問題が発生する。 ・居住不可能となった湛水エリアの居住者が移転可能な場所の確保が困難となる。 ・宮崎市南部の沿岸地域は、1662 年外所地震によって水面下に沈んだ集落があったところであり、再び沈下すると南北の交通路が使用できなくなり、復旧に支障をきたす恐れがある。

区分	項目
その他の被害	複合災害

被害様相

地震発生直後	
複数の自然災害の同時発生による被害の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害等による避難中に地震が発生した場合、避難所の倒壊や屋内落下物等により人的被害が拡大する。 ・堤防や護岸、砂防ダム等が揺れ・液状化・津波により機能低下し、台風や集中豪雨による洪水や高潮等を防ぎきれず、建物被害や死傷者が増加する。 ・地震発生時に悪天候であった場合、自宅外への避難行動が遅れ、津波による死傷者が増加する。 ・地震により弱体化していた建物が暴風により全壊するなど、大きな被害が発生する。 ・激しい揺れにより崩壊、または緩んでいた斜面や宅地造成地が、大雨により崩壊する。 ・地震と風水害が重なると、深層崩壊など、斜面や地盤の崩壊が起こりやすくなり、孤立する集落が多く発生する。 ・山間部では、深層崩壊の危険性が高い地域があり、河道閉塞が発生し、上流からの水がせき止められ、せき止め湖（天然ダム）が発生し、崩壊により下流域へ水が一気に押し寄せるリスクが高まる。 ・地震により火山噴火が誘発された場合、火山周辺で避難指示区域が設定され、避難者数が更に増加する。
対応の混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・人的・物的資源や活動場所の確保等において、災害対策本部等の対応体制（地震対応か台風対応か）が混乱する。 ・災害応急対策の活動拠点や避難所等が地震による揺れや津波などで被災しなかった場合でも、風水害や火山災害等が重なれば拠点確保が困難となる。 ・悪天候により、地震・津波の死者・行方不明者の捜索が困難となる。 ・波浪・高潮・暴風・冠水等により、道路交通や空港・港湾等の利用が制限され、被災地内での人員・車両・重機等の移動、また被災地外からの応援が困難となり救急・救助活動が遅れる。 ・地震発生後に火山が噴火すると、降灰により、道路の移動困難や救助・救急、地震で発生したがれき撤去作業が困難となる。 ・悪天候や降灰により、地震で発生した膨大な数の負傷者等の車両による搬送の遅れ、ヘリコプターによる移動・搬送が困難となる。
概ね数日後～	
繰り返し避難することによる心身の疲労・ストレス	<ul style="list-style-type: none"> ・先に発生した災害で避難した避難所の避難者や、その後に入居した仮設住宅等にいる被災者が、別の災害によって再度別の場所に避難することになると、被災者の心身の疲労・ストレスの増大、健康被害の発生につながる。

概ね 1 か月後 ~	1 年後以降も同様
広域・長期間に及ぶ電力供給不足による災害応急対策、復旧活動の困難	<ul style="list-style-type: none"> 九州地域も大きな揺れに見舞われることで、原子力発電所の安全確認に時間を要したり、別府湾沿岸の火力発電所などが、揺れ・液状化・津波等により広範囲で同時に電力供給停止する。さらに、濁水が重なることで水力発電による電力供給量が減少し、内陸部及び被災地外からの電力の融通ができず停電が長期化する。

区分	項目
その他の被害	時間差での地震の発生

被害様相

地震発生直後	
強震動が時間遅れで発生することによる建物被害・人的被害の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の地震により脆弱化した建物が、後発の地震により倒壊する。 ・建物等の下敷きとなった要救助者が後発の地震による建物等の倒壊で圧死する。 ・新たな倒壊家屋からの出火により延焼範囲が拡大する。 ・急傾斜地、宅地造成地などで、先の地震により地盤が緩み、後発の地震により崩壊する。
津波の重なりによる津波高の増幅効果	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の地震に伴う津波が継続しているときに後発地震が発生した場合には、津波が重なり合うことで津波の高さが増幅する。
防災施設の脆弱化に伴う被害拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・先の地震・津波により海岸・河川堤防が破損した地域には、後発の地震に伴う津波の被害が大きくなる。

概ね数日後～	
災害応急対策時の二次災害等、活動支障の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・救助・搜索等の活動中に、建物の倒壊、津波、急傾斜地の崩壊によって二次災害が発生する。
他地域へ応援活動時の被災（災害応急対策の体制が手薄）	<ul style="list-style-type: none"> ・二度目の地震で大きな被害が出た地域において、先に発生した地震対応の応援活動が行われていたために、救助・救急活動や消火活動等に必要な人員・資機材等の資源が十分に確保できない。
被害の広域化、被災地外への影響の波及	<ul style="list-style-type: none"> ・先に発生した地震対応のために、全国的に物資等が調達・消費されており、救命・救急に必要医薬品、避難生活等に必要水・食料や生活必需品等が不足する。
時間差発生に対する社会的な不安の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店から一部の食料・物資等が買い占め等により購入が困難となるほか、燃料不足への懸念から、給油待ちの車両が長蛇の列を作る事態が発生する。

概ね1か月後～	
時間差発生に対する社会的な不安の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性の確保されていない建物に対する不安等により店舗や集客施設等への来客が減少する、津波が来るおそれのある臨海部で業務の場所を制限する等の対策により業務効率が落ちる、地域外からの観光客の減少や、被災地での事業展開（企業の進出等）が控えられる等、社会的不安が増大する。
復旧、復興作業中の被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・道路・橋梁、港湾等の社会基盤、ライフラインの仮復旧作業中に揺れや津波等によって再度、これらの設備が被害を受ける。 ・再建中の施設が破壊されることにより、がれき量が更に増加し、仮置き場の確保や最終処理が困難になる。

<p>多数の支援者の被災</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政や消防・警察・自衛隊等の応援部隊や、社会基盤・ライフラインの復旧作業員、被災者支援の NPO・ボランティア等、被災地で大量の人員が日常的に活動していることが予想される。これらの人々が、活動場所で被災し、揺れによる建物被害や津波等に巻き込まれて死傷する。
<p>社会経済機能の復旧の遅延</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先に発生した災害から仮復旧・再開していた仮設店舗、市場等が再度被災する。 先に発生した災害では被害を免れていた農業や漁業（養殖）業が、別の災害によって被災し、地域の産業が全般的に停滞する。

<p>概ね 1 年後 ~</p>	
<p>復興、生活再建中の被災</p>	<ul style="list-style-type: none"> 応急仮設住宅（借り上げ型仮設住宅も含む）や復興住宅等での仮住まいや、再就職等の生活再建が進みつつある際に地震が発生することにより、被災者がふたたび立ち直るだけの財力・気力を保つことが困難になる。
<p>オープンスペース等の確保困難</p>	<ul style="list-style-type: none"> 確保可能なオープンスペースに、復興住宅や応急仮設住宅、及びがれきの仮置き場等が既に立ち上がっており、二度目の被災時に活用可能なオープンスペースが不足する。

区分	項目
その他の被害	漁船・船舶、水産関連施設

被害様相

地震発生直後	
漂流漁船・船舶、燃料、運搬物等の流出による陸上での被害の拡大	・津波被害が予想される地域には、漁船等に加え、港に出入りする大型の船舶や、危険物を輸送する船舶が存在しており、これらの船舶が市街地を漂流した場合、衝突等による人的・物的被害の拡大、危険物の流出・発火による延焼被害の拡大が発生する。
漁船、漁港、水産関連施設等の被災	・養殖業において設備の被害や養殖している魚介類の流失等の被害が発生する。

概ね数日後～	
漁船・船舶の撤去等の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・漁船等に加え大型の船舶が打ち上げられることで、交通の妨げとなり救助・救急活動や応急復旧作業が遅れる。 ・所有者が不明の船舶が多数陸上に打ち上げられ、解体・廃棄まで時間を要する。 ・打ち上げられた船舶を「災害遺構」として保存する動き等が発生し、解体・廃棄まで時間を要する。
腐敗・劣化した水産加工品・工業製品等の処分	<ul style="list-style-type: none"> ・津波による被害のほか、強い揺れによってライフラインが途絶し、魚介類等の冷凍・冷蔵保存を伴う業務が広範囲でできなくなる。そのために腐敗した魚介類や水産加工品等が大量に発生し、処分する必要がある。 ・工業製品を出荷していた港湾が利用できなくなることで、港湾周辺に大量の工業製品等が滞留し、劣化して経済的な損失につながる。
漁港等の利用困難	・津波により漁港等が甚大な被害を受けることに加え、座礁・沈没した船舶や湾内の大量の漂流物により漁港の係船・陸揚げ機能が麻痺し、物資や応援の人員、復旧資機材等の輸送のための利用ができなくなる。

概ね1か月後～	
漁船等の被災による生活困難	・大津波が発生する地域では漁船、漁港及び沿岸部の市場・加工施設等が壊滅的な被害を受け、国内外への流通品が減少するとともに、多数の漁業関係者が収入を得られず生活が困難となる。
漁業再開の困難	・漁港等の被害等による係留・陸揚げ機能の麻痺が続き、漁業活動の再開が困難となる。

概ね1年後～	
漁業再開の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災では、水揚高が震災前の61%まで減少しており、漁港の流通・加工機能が十分に回復せず、全国からの外来漁船の利用・陸揚げが低迷する。 ・個別の事業者（漁師）の収入が回復せず、漁船や漁網等、漁業再開の

	<p>ための資機材確保が困難となる。</p> <ul style="list-style-type: none">・養殖業や海藻、魚介等の漁獲量が、津波による施設被害や海底地形の変動、災害廃棄物の堆積等の影響によって震災前と同様の水準に戻らない状態が続く。
--	--

区分	項目
その他の被害	治安

被害様相

概ね数日後～	
避難エリアにおける空き巣等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店員等が避難して不在となった店舗で物品の盗難等の被害が発生する。 ・ 住民が避難して不在となった住宅への空き巣被害等が発生する。 ・ 工場や港湾等において、自動車等の製品や、燃料・資材等の盗難被害が発生する。
暴行・傷害行為の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資が不足している避難所や、生活環境が劣悪な避難所等において、避難者同士または避難者と支援者（行政職員やボランティア等）の暴力事件が発生する。
悪質商法や義援金詐欺等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的被害の軽微だった地域を中心に、「時間差発生」等の説明を悪用して、家屋等の点検作業を働きかける悪質商法が発生する。 ・ 義援金詐欺による被害が被災地外で発生する。
デマ等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間差によって数日後に更に大きな被害が発生するなど、不安を煽るデマ情報が発生し、被災者の混乱、疲労につながる。 ・ 工業地帯の火災や爆発等に関するデマ情報が発生する。 ・ 製造業・加工業が被災することで、全国的な物資の枯渇を示唆するデマ情報が発生する。 ・ 信憑性の低い段階で、霧島の噴火や、えびの・小林地震に関するデマ情報が発生する。

資産等の被害

(単位：兆円)

分類	被害	想定ケース	想定ケース
建物被害	建物被害額	3.4	3.3
	家財資産被害額	0.05	0.06
	事業所償却資産被害額	0.5	0.5
	事業所棚卸資産被害額	0.2	0.2
ライフライン・インフラ施設被害	上水道被害額	0.02	0.02
	下水道被害額	0.1	0.1
	電気被害額	0.01	0.01
	通信被害額	0.02	0.02
	ガス被害額	0.001	0.001
	道路被害額	0.04	0.04
	鉄道被害額	0.02	0.02
	港湾被害額	0.2	0.2
	漁港被害額	0.09	0.09
その他土木施設被害	河川・海岸施設, 空港 等	0.2	0.2
土地の損壊・損失	農地被害額	0.2	0.1
災害廃棄物処理	災害廃棄物被害額	0.3	0.2
計		5.3	5.2

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

生産・サービス低下による影響

(単位：百億円)

産業	想定ケース	想定ケース
農林水産業	1.6	1.6
鉱業	0.1	0.1
建設業	4.3	4.0
卸売・小売業	7.1	6.8
金融・保険業	9.1	8.7
不動産業	7.8	7.4
運輸・通信業	7.0	6.8
電気・ガス・水道業	3.3	3.1
サービス業	40.2	40.0
輸送機械	0.7	0.7
輸送機械以外の製造業	11.3	10.8
合計	92.5	90.0

注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

交通寸断による影響

(単位：百億円)

項目		復旧完了までに要する時間	想定ケース	想定ケース
道路	人流	1ヶ月の場合	1.1	1.1
		6ヶ月の場合	6.1	7.2
	物流	1ヶ月の場合	27.7	27.8
		6ヶ月の場合	103.4	90.1
鉄道	人流	1ヶ月の場合	0.04	0.04
		6ヶ月の場合	0.2	0.2
空港	人流・物流	1ヶ月の場合	0.2	0.2
合計		道路・鉄道が6ヶ月停止する場合	109.9	97.6
【参考】 港湾	物流	1年間	1.0	1.1

(注1) 港湾機能停止による損失額は、コンテナ貨物は代替港湾に陸送し、バラ貨物は輸送を取りやめると仮定して推計しており、参考値として記載します。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果

全半壊棟数（想定ケース 冬 18 時 現状耐震化率 71～87%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約2,500	約10,000	約19,000	約27,000	約70	約140	約5,000	約5,900	約2,200	約29,000	約44,000
都城市	約310	約1,400	約890	約7,100	約30	約60	-	-	約40	約1,300	約8,500
延岡市	約1,700	約5,900	約6,400	約11,000	約130	約240	約9,500	約6,100	約460	約18,000	約23,000
日南市	約810	約2,800	約920	約3,700	約60	約110	約2,800	約1,800	約30	約4,600	約8,400
小林市	約130	約680	約130	約1,600	約10	約10	-	-	約10	約280	約2,300
日向市	約530	約2,200	約4,900	約5,300	約30	約60	約7,400	約3,000	約70	約13,000	約11,000
串間市	約70	約200	約50	約660	約10	約30	約140	約600	-	約270	約1,500
西都市	約250	約980	約3,500	約3,300	約10	約20	-	-	約50	約3,800	約4,300
えびの市	約170	約800	約340	約1,800	-	-	-	-	約10	約530	約2,600
三股町	約40	約240	約170	約1,100	約10	約10	-	-	約10	約220	約1,400
高原町	約10	約50	約10	約230	-	約10	-	-	-	約20	約290
国富町	約10	約50	約1,200	約2,100	約10	約20	-	-	約20	約1,200	約2,100
綾町	-	約20	約290	約680	-	約10	-	-	約10	約300	約710
高鍋町	約130	約530	約3,300	約2,000	-	約10	約420	約1,200	約80	約3,900	約3,800
新富町	約20	約140	約2,200	約1,400	約10	約20	約60	約270	約20	約2,300	約1,900
西米良村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
木城町	約30	約110	約960	約630	-	約10	-	-	約10	約1,000	約750
川南町	約10	約20	約3,200	約2,400	-	約10	約150	約70	約20	約3,400	約2,500
都農町	約10	約50	約1,300	約1,200	-	約10	約110	約70	約20	約1,400	約1,300
門川町	約430	約1,600	約1,100	約1,600	約20	約30	約3,200	約600	約20	約4,800	約3,800
諸塚村	-	-	-	約70	-	約10	-	-	-	約10	約80
椎葉村	-	-	約10	約130	-	約10	-	-	-	約10	約140
美郷町	-	約10	約90	約660	約20	約30	-	-	-	約110	約700
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約40
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約30
合計	約7,100	約28,000	約50,000	約76,000	約430	約850	約29,000	約20,000	約3,100	約89,000	約124,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

全半壊棟数（想定ケース 冬 18 時 耐震化率 90%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約550	約10,000	約7,500	約15,000	約80	約160	約5,900	約6,700	約2,200	約16,000	約32,000
都城市	約70	約1,400	約280	約2,300	約30	約60	-	-	約40	約420	約3,700
延岡市	約360	約5,700	約2,100	約4,600	約150	約290	約11,000	約7,000	約420	約14,000	約18,000
日南市	約180	約2,700	約280	約1,200	約60	約120	約3,000	約2,000	約20	約3,600	約6,100
小林市	約30	約670	約40	約480	約10	約20	-	-	約10	約80	約1,200
日向市	約110	約2,200	約1,800	約3,000	約30	約70	約9,400	約3,300	約60	約11,000	約8,600
串間市	約10	約200	約10	約180	約10	約30	約140	約630	-	約190	約1,000
西都市	約60	約960	約1,200	約1,800	約10	約20	-	-	約60	約1,400	約2,800
えびの市	約40	約790	約100	約580	-	-	-	-	約10	約160	約1,400
三股町	約10	約240	約60	約380	約10	約10	-	-	約10	約70	約630
高原町	-	約50	-	約70	-	約10	-	-	-	約10	約120
国富町	-	約50	約370	約890	約10	約30	-	-	約20	約410	約960
綾町	-	約20	約90	約280	-	約10	-	-	約10	約100	約310
高鍋町	約30	約520	約1,300	約1,700	-	約10	約600	約1,300	約110	約2,100	約3,500
新富町	-	約140	約950	約1,200	約10	約20	約80	約270	約20	約1,100	約1,700
西米良村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約20
木城町	約10	約110	約390	約480	-	約10	-	-	約10	約400	約600
川南町	-	約20	約1,200	約1,700	-	約10	約220	約70	約20	約1,500	約1,800
都農町	-	約50	約440	約710	-	約10	約160	約70	約30	約630	約830
門川町	約90	約1,600	約390	約720	約20	約40	約3,900	約680	約20	約4,400	約3,000
諸塚村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	約10	約30
椎葉村	-	-	-	約30	-	約10	-	-	-	約10	約40
美郷町	-	約10	約20	約180	約20	約30	-	-	-	約40	約220
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
合計	約1,600	約27,000	約19,000	約37,000	約480	約990	約35,000	約22,000	約3,000	約58,000	約88,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 本想定では、被害要因の重複を避けるため、「液状化 揺れ 急傾斜地崩壊 津波 火災焼失」の順で想定することとしました。よって、耐震化によって「揺れ」による全壊が免れても、その後の「津波」によって全壊する場合もあり、耐震化によって、津波による被害が増える結果になりました。

減災効果

全半壊棟数（想定ケース 冬 18 時 現状耐震化率 71～87％）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約2,500	約10,000	約18,000	約27,000	約70	約140	約3,500	約6,000	約2,300	約26,000	約44,000
都城市	約310	約1,400	約940	約7,600	約30	約60	-	-	約40	約1,300	約9,000
延岡市	約1,700	約5,900	約6,000	約11,000	約130	約240	約5,800	約5,200	約520	約14,000	約22,000
日南市	約810	約2,800	約7,900	約5,800	約60	約140	約2,200	約1,600	約100	約11,000	約10,000
小林市	約130	約680	約120	約1,500	約10	約10	-	-	約10	約270	約2,200
日向市	約530	約2,200	約4,900	約5,300	約30	約60	約5,200	約3,700	約100	約11,000	約11,000
串間市	約70	約200	約2,600	約3,200	約20	約50	約370	約610	約50	約3,100	約4,100
西都市	約250	約980	約3,300	約3,300	約10	約20	-	-	約40	約3,600	約4,300
えびの市	約170	約800	約300	約1,700	-	-	-	-	約10	約490	約2,500
三股町	約40	約240	約140	約1,100	約10	約10	-	-	約10	約190	約1,300
高原町	約10	約50	約20	約310	-	約10	-	-	-	約30	約370
国富町	約10	約50	約1,100	約2,100	約10	約20	-	-	約30	約1,200	約2,100
綾町	-	約20	約280	約670	-	約10	-	-	約10	約300	約700
高鍋町	約130	約530	約3,200	約2,100	-	約10	約170	約730	約80	約3,600	約3,300
新富町	約20	約140	約2,200	約1,400	約10	約20	約30	約150	約20	約2,300	約1,800
西米良村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
木城町	約30	約110	約990	約620	-	約10	-	-	約10	約1,000	約740
川南町	約10	約20	約3,100	約2,400	-	約10	約140	約60	約10	約3,300	約2,500
都農町	約10	約50	約1,200	約1,200	-	約10	約100	約40	約20	約1,400	約1,300
門川町	約430	約1,600	約1,200	約1,600	約20	約30	約2,000	約1,000	約30	約3,600	約4,300
諸塚村	-	-	-	約70	-	約10	-	-	-	約10	約80
椎葉村	-	-	約10	約130	-	約10	-	-	-	約10	約140
美郷町	-	約10	約80	約650	約20	約30	-	-	-	約100	約680
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約40
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約30
合計	約7,100	約28,000	約58,000	約81,000	約440	約910	約19,000	約19,000	約3,300	約88,000	約129,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

全半壊棟数（想定ケース 冬 18 時 耐震化率 90％）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約550	約10,000	約7,000	約14,000	約80	約160	約4,300	約6,700	約2,200	約14,000	約31,000
都城市	約70	約1,300	約300	約2,400	約30	約70	-	-	約40	約430	約3,800
延岡市	約360	約5,700	約2,000	約4,500	約150	約290	約6,900	約6,100	約470	約9,800	約17,000
日南市	約180	約2,700	約3,100	約3,700	約80	約160	約3,500	約1,600	約120	約7,000	約8,200
小林市	約30	約670	約40	約470	約10	約20	-	-	約10	約80	約1,100
日向市	約110	約2,200	約1,800	約3,100	約30	約60	約6,500	約4,000	約100	約8,500	約9,300
串間市	約10	約200	約800	約1,500	約30	約60	約560	約680	約40	約1,400	約2,400
西都市	約60	約960	約1,200	約1,700	約10	約20	-	-	約50	約1,300	約2,700
えびの市	約40	約790	約90	約540	-	-	-	-	約10	約140	約1,300
三股町	約10	約240	約50	約350	約10	約10	-	-	約10	約60	約600
高原町	-	約50	-	約90	-	約10	-	-	-	約10	約150
国富町	-	約50	約360	約870	約10	約30	-	-	約20	約400	約950
綾町	-	約20	約90	約270	-	約10	-	-	約10	約100	約300
高鍋町	約30	約520	約1,300	約1,700	-	約10	約240	約760	約100	約1,700	約3,000
新富町	-	約140	約980	約1,200	約10	約20	約40	約150	約20	約1,100	約1,500
西米良村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約20
木城町	約10	約110	約420	約490	-	約10	-	-	約10	約440	約610
川南町	-	約20	約1,200	約1,700	-	約10	約200	約60	約20	約1,400	約1,700
都農町	-	約50	約430	約700	-	約10	約150	約40	約30	約610	約800
門川町	約90	約1,600	約410	約740	約20	約40	約2,400	約1,200	約20	約2,900	約3,500
諸塚村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約30
椎葉村	-	-	-	約30	-	約10	-	-	-	約10	約40
美郷町	-	約10	約20	約180	約20	約30	-	-	-	約40	約220
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
合計	約1,600	約27,000	約22,000	約41,000	約520	約1,100	約25,000	約21,000	約3,300	約52,000	約91,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 本想定では、被害要因の重複を避けるため、「液状化 揺れ 急傾斜地崩壊 津波 火災焼失」の順で想定することとしました。よって、耐震化によって「揺れ」による全壊が免れても、その後の「津波」によって全壊する場合もあり、耐震化によって、津波による被害が増える結果になりました。

減災効果

死傷者数（想定ケース 冬深夜 津波避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,500	約80	約7,700	約1,100	約10	約10	約7,800	約2,400	約60	約70	-	-	約9,300	約10,000
都城市	約60	-	約1,100	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,100
延岡市	約490	約20	約2,800	約340	約10	約20	約15,000	約2,300	約10	約10	-	-	約16,000	約5,200
日南市	約70	-	約710	約40	約10	約10	約2,300	約540	-	-	-	-	約2,400	約1,300
小林市	約10	-	約240	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約240
日向市	約370	約20	約1,600	約230	-	-	約15,000	約1,900	約10	-	-	-	約16,000	約3,500
串間市	-	-	約100	-	-	-	約310	約120	-	-	-	-	約320	約220
西都市	約250	約10	約950	約160	-	-	-	-	-	-	-	-	約250	約960
えびの市	約20	-	約360	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約360
三股町	約10	-	約180	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約80	-	約420	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約420
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約840	約150	-	-	約930	約390	約10	-	-	-	約1,200	約1,200
新富町	約160	約10	約520	約130	-	-	約230	約150	-	-	-	-	約390	約680
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約220	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約220
川南町	約210	約10	約860	約100	-	-	約400	約20	-	-	-	-	約620	約890
都農町	約90	-	約350	約50	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約290	約370
門川町	約80	-	約440	約50	-	-	約3,700	約390	-	-	-	-	約3,800	約840
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,700	約190	約20,000	約2,600	約50	約60	約47,000	約8,300	約90	約110	-	-	約51,000	約28,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果 死傷者数(想定ケース 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率71~87% 早期避難者比率低)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)
宮崎市	約1,500	約80	約7,700	約1,100	約10	約10	約1,500	約560	約60	約70	-	-	約3,100	約8,300
都城市	約60	-	約1,100	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,100
延岡市	約490	約20	約2,800	約340	約10	約20	約7,900	約960	約10	約10	-	-	約8,400	約3,800
日南市	約70	-	約710	約40	約10	約10	約2,000	約380	-	-	-	-	約2,100	約1,100
小林市	約10	-	約240	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約240
日向市	約370	約20	約1,600	約230	-	-	約14,000	約1,700	約10	-	-	-	約15,000	約3,300
串間市	-	-	約100	-	-	-	約310	約120	-	-	-	-	約320	約220
西都市	約250	約10	約950	約160	-	-	-	-	-	-	-	-	約250	約960
えびの市	約20	-	約360	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約360
三股町	約10	-	約180	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約80	-	約420	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約420
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約840	約150	-	-	約760	約230	約10	-	-	-	約1,000	約1,100
新富町	約160	約10	約520	約130	-	-	約190	約150	-	-	-	-	約350	約680
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約220	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約220
川南町	約210	約10	約860	約100	-	-	約400	約20	-	-	-	-	約620	約890
都農町	約90	-	約350	約50	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約290	約370
門川町	約80	-	約440	約50	-	-	約3,600	約330	-	-	-	-	約3,600	約780
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,700	約190	約20,000	約2,600	約50	約60	約31,000	約4,500	約90	約110	-	-	約35,000	約24,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

+ 早期避難高

死傷者数(想定ケース 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率90% 早期避難者比率高+呼びかけ)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)
宮崎市	約640	約40	約4,100	約630	約10	約10	約240	約20	約10	約40	-	-	約890	約4,100
都城市	約20	-	約410	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約410
延岡市	約170	約10	約1,200	約170	約10	約20	約690	約20	-	約10	-	-	約880	約1,200
日南市	約20	-	約260	約30	約10	約10	約60	約40	-	-	-	-	約80	約300
小林市	-	-	約80	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約80
日向市	約150	約10	約820	約120	-	-	約5,600	約510	-	-	-	-	約5,700	約1,300
串間市	-	-	約30	-	-	-	約170	約20	-	-	-	-	約170	約50
西都市	約90	約10	約480	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	約90	約480
えびの市	約10	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
三股町	-	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
高原町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
国富町	約30	-	約190	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約190
綾町	約10	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
高鍋町	約90	約10	約510	約80	-	-	約80	約10	-	-	-	-	約170	約530
新富町	約70	約10	約340	約70	-	-	約20	-	-	-	-	-	約90	約350
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約130	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約140
川南町	約80	-	約490	約50	-	-	約40	約10	-	-	-	-	約120	約500
都農町	約30	-	約180	約20	-	-	約20	-	-	-	-	-	約50	約180
門川町	約30	-	約200	約30	-	-	約140	約40	-	-	-	-	約170	約240
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,500	約100	約9,700	約1,500	約50	約60	約7,000	約670	約20	約50	-	-	約8,600	約10,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果

死傷者数（想定ケース 冬深夜 津波避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,400	約80	約7,500	約1,100	約10	約10	約6,700	約2,000	約60	約70	-	-	約8,200	約9,600
都城市	約70	-	約1,200	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約1,200
延岡市	約460	約20	約2,700	約320	約10	約20	約9,300	約2,200	約10	約10	-	-	約9,700	約5,000
日南市	約560	約30	約2,100	約340	約10	約10	約4,800	約720	約20	約10	-	-	約5,400	約2,800
小林市	約10	-	約230	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約230
日向市	約370	約20	約1,600	約240	-	-	約10,000	約1,900	約10	-	-	-	約11,000	約3,600
串間市	約180	約10	約790	約70	-	-	約660	約180	-	-	-	-	約840	約970
西都市	約240	約10	約940	約160	-	-	-	-	-	-	-	-	約240	約940
えびの市	約20	-	約340	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約340
三股町	約10	-	約160	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約160
高原町	-	-	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約50
国富町	約80	-	約410	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約410
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約830	約150	-	-	約480	約280	約10	-	-	-	約710	約1,100
新富町	約160	約10	約530	約130	-	-	約90	約40	-	-	-	-	約250	約570
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約230	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約230
川南町	約210	約10	約850	約100	-	-	約390	約10	-	-	-	-	約600	約860
都農町	約80	-	約340	約50	-	-	約200	約10	-	-	-	-	約290	約360
門川町	約90	-	約460	約60	-	-	約2,900	約480	-	-	-	-	約3,000	約940
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約4,200	約210	約21,000	約2,900	約50	約60	約36,000	約7,900	約110	約120	-	-	約40,000	約30,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果 死傷者数(想定ケース 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率71~87% 早期避難者比率低)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	
宮崎市	約1,400	約80	約7,500	約1,100	約10	約10	約1,500	約450	約60	約70	-	-	約2,900	約8,000
都城市	約70	-	約1,200	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約1,200
延岡市	約460	約20	約2,700	約320	約10	約20	約3,900	約1,100	約10	約10	-	-	約4,400	約3,900
日南市	約560	約30	約2,100	約340	約10	約10	約4,500	約670	約20	約10	-	-	約5,100	約2,800
小林市	約10	-	約230	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約230
日向市	約370	約20	約1,600	約240	-	-	約9,600	約1,900	約10	-	-	-	約10,000	約3,500
串間市	約180	約10	約790	約70	-	-	約640	約170	-	-	-	-	約820	約970
西都市	約240	約10	約940	約160	-	-	-	-	-	-	-	-	約240	約940
えびの市	約20	-	約340	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約340
三股町	約10	-	約160	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約160
高原町	-	-	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約50
国富町	約80	-	約410	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約410
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約830	約150	-	-	約370	約170	約10	-	-	-	約610	約1,000
新富町	約160	約10	約530	約130	-	-	約60	約20	-	-	-	-	約230	約550
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約230	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約230
川南町	約210	約10	約850	約100	-	-	約390	約10	-	-	-	-	約600	約860
都農町	約80	-	約340	約50	-	-	約200	約10	-	-	-	-	約290	約360
門川町	約90	-	約460	約60	-	-	約2,800	約450	-	-	-	-	約2,900	約910
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約4,200	約210	約21,000	約2,900	約50	約60	約24,000	約5,000	約110	約120	-	-	約28,000	約27,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

+ 早期避難高

死傷者数(想定ケース 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率90% 早期避難者比率高+呼びかけ)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	
宮崎市	約610	約40	約3,900	約600	約10	約10	約240	約40	約10	約40	-	-	約860	約4,000
都城市	約20	-	約430	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約430
延岡市	約160	約10	約1,100	約190	約10	約20	約160	-	-	-	-	-	約340	約1,200
日南市	約210	約10	約1,200	約180	約10	約10	約570	約90	-	約10	-	-	約800	約1,300
小林市	-	-	約80	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約80
日向市	約150	約10	約830	約120	-	-	約2,200	約380	-	-	-	-	約2,400	約1,200
串間市	約60	-	約340	約30	-	-	約100	約50	-	-	-	-	約160	約390
西都市	約80	約10	約470	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	約90	約470
えびの市	約10	-	約110	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約110
三股町	-	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約60
高原町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
国富町	約30	-	約180	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約190
綾町	約10	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
高鍋町	約90	約10	約510	約80	-	-	約30	-	-	-	-	-	約120	約510
新富町	約80	約10	約350	約80	-	-	約10	-	-	-	-	-	約90	約350
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約140	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約140
川南町	約80	-	約470	約50	-	-	約20	-	-	-	-	-	約100	約480
都農町	約30	-	約180	約20	-	-	約10	-	-	-	-	-	約40	約180
門川町	約30	-	約200	約30	-	-	約70	約30	-	-	-	-	約100	約240
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,700	約110	約11,000	約1,600	約50	約60	約3,400	約600	約20	約60	-	-	約5,200	約11,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果

資産等の被害

(単位：兆円)

分類	被害	想定ケース		想定ケース	
		減災前	減災後	減災前	減災後
建物被害	建物被害額	3.4	2.6	3.3	2.4
	家財資産被害額	0.05	0.05	0.06	0.06
	事業所償却資産被害額	0.5	0.4	0.5	0.4
	事業所棚卸資産被害額	0.2	0.2	0.2	0.2
ライフライン・インフラ施設被害	上水道被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
	下水道被害額	0.1	0.1	0.1	0.1
	電気被害額	0.01	0.01	0.01	0.01
	通信被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
	ガス被害額	0.001	0.001	0.001	0.001
	道路被害額	0.04	0.04	0.04	0.04
	鉄道被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
	港湾被害額	0.2	0.2	0.2	0.2
	漁港被害額	0.09	0.09	0.09	0.09
その他土木施設被害	河川・海岸施設, 空港 等	0.2	0.2	0.2	0.2
土地の損壊・損失	農地被害額	0.2	0.2	0.1	0.1
災害廃棄物処理	災害廃棄物被害額	0.3	0.3	0.2	0.2
計		5.3	4.4	5.2	4.2

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果

生産・サービス低下による影響

(単位：百億円)

	想定ケース		想定ケース	
	減災前	減災後	減災前	減災後
農林水産業	1.6	1.2	1.6	1.2
鉱業	0.1	0.1	0.1	0.1
建設業	4.3	3.0	4.0	2.8
卸売・小売業	7.1	5.1	6.8	4.7
金融・保険業	9.1	6.5	8.7	6.0
不動産業	7.8	6.0	7.4	5.4
運輸・通信業	7.0	4.9	6.8	4.6
電気・ガス・水道業	3.3	2.4	3.1	2.2
サービス業	40.2	38.0	40.0	37.5
輸送機械	0.7	0.6	0.7	0.5
輸送機械以外の製造業	11.3	8.4	10.8	7.7
合計	92.5	76.1	90.0	72.6

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

減災効果

交通寸断による影響

(単位：百億円)

項目		復旧完了までに要する時間	想定ケース		想定ケース	
			減災前	減災後	減災前	減災後
道路	人流	1ヶ月の場合	1.1	1.1	1.1	1.1
		6ヶ月の場合	6.1	5.1	7.2	5.3
	物流	1ヶ月の場合	27.7	27.7	27.8	27.8
		6ヶ月の場合	103.4	72.3	90.1	74.4
鉄道	人流	1ヶ月の場合	0.04	0.04	0.04	0.04
		6ヶ月の場合	0.2	0.2	0.2	0.2
空港	人流・物流	1ヶ月	0.2	0.2	0.2	0.2
合計		道路・鉄道が6ヶ月停止する場合	109.9	77.7	97.6	80.1

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。